

# [ 横浜美術館 ]

## 平成 24 年度業務報告及び収支決算

[横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント共同事業体]

### 1 施設の概要

施設名	横浜美術館
所在地	横浜市西区みなとみらい 3 丁目 4 番 1 号
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造8階一部3階建
敷地・延べ床面積	延床 26,829.4 m <sup>2</sup>
開館日	平成元年 11 月 3 日

### 2 指定管理者

共同事業体名	横浜市芸術文化振興財団・相鉄エージェンシー・三菱地所ビルマネジメント共同事業体
代表構成団体	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市西区みなとみらい 3 丁目 4 番 1 号
代表者	理事長 澄川 喜一
設立年月日	平成 3 年 7 月 10 日
指定期間	平成 20 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日

### 3 平成 24 年度総括

第 1 期指定管理の最終年度にあたり、収支バランスのとれた事業展開をはかり、館員全員が細心の注意を払って館の運営にあたることができました。

一方、館の老朽化が進み、設備の不具合が頻発しています。空調や消防設備など館の中核機能にも及んでおり、今後の運営に決定的な影響を与えかねないことが懸念されます。根本的な設備改修の必要性を、より一層具体的に横浜市及び関係者に説明していくことが、次年度以降の大きな課題です。奈良美智展、ロバート・キャパ/ゲルダ・タロー二人の写真家展の入館者数が見込みを大きく上回ったことなどで、年間の入館者数が約 66 万 2 千人と、昨年の約 46 万人から大幅に増加したことにより、当期収支差額が大きく収益増となり経営基盤の安定化につなげることができました。

## 4 業務報告

### ■自主事業に関する振り返り■

#### (1) 収蔵美術品等の収集・保管・管理・調査・研究について

##### 1) 専門的研究に基づく作品収集

<p>●内部検討委員会への提案</p> <p>・購入候補、寄贈寄託候補作品について、専門的な観点から必要な調査研究を行い、その妥当性を検討します。検討に基づき策定された収集候補作品案を内部検討委員会に提案します。</p>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<p>■収集方針および「中期重点取組方針」に基づき、収集候補作品案、寄贈候補作品案を提案し、更なるコレクションの充実に図ります。</p> <p>内部検討委員会への提案:年1回</p>	<p>■今年度の収集作品を横浜市に提案する内部検討委員会を12月に実施し、1月に収集審査委員会および価額評価委員会が開催され、「中期重点取組方針」に基づく美術品が適切に収蔵されました。</p>

##### 2) 適切で安全確実な保管・管理の実現

<p>●収蔵美術品等の正確なデータベース構築</p> <p>美術作品、作家の履歴データを遅滞なく入力します。</p> <p>●収蔵庫等の保管環境の監視</p> <p>中央監視室との連絡を密にして、環境の異常を遅滞なく把握し、問題点を報告します。また、可能な範囲で対策をとります。</p> <p>●収蔵美術品等の貸出</p> <p>決められた手続きを踏まえて、美術品等を他施設の事業のために貸与し活用します。</p> <p>●収蔵美術品等の特別利用(熟覧)</p> <p>決められた手続きを踏まえて、研究者や専門家に収蔵美術品等の熟覧の機会を提供します。</p>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<p>■収蔵美術品を正確にデータベース管理し、収蔵庫等の保管環境を監視します。</p> <p>・所蔵美術品のデータの改変が必要と認められた場合、その都度、館長まで改変データを供覧し、データ修正を行います。</p> <p>・地震等が発生した場合、速やかに収蔵庫内の状況を目視確認します。</p> <p>■適切な手続きに則り、収蔵美術品を国内外の他施設に貸出し、また、特別利用の機会を提供することにより、当該作品の研究に資するとともに、横浜美術館の価値発信を行います。</p>	<p>■2月末日現在で、2,572点の作品のデータ修正を行い、所蔵品データベースを訂正しました。</p> <p>■中央監視室から毎日提示される収蔵庫・展示室の温湿度データを保存研究チームで確認し、異常がないか監視しました。地震等が発生したら、速やかに展示室および収蔵庫の状態を目視確認しました。</p> <p>■他館への作品貸出、特別利用(図版貸出・熟覧・撮影)を、3月末現在で下記の通り実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品貸出・返却:40件 252点</li> <li>・図版貸出:95件 287点</li> <li>・熟覧/撮影:7件 21点(10月に実施した Los Angeles の Paul Getty Museum の写真キュレーターズツアーにおける特別熟覧は含まれていません。)</li> </ul>

##### 3) 計画的な修復の遂行

<p>●修復計画の策定</p> <p>収蔵美術品の修復(洗浄、補彩、成形、充填、ルースライニングなど)、新規額装・マット装、新規表装、額・表具の修理などについて、優先順位を決めて、実施します。</p>	
達成指標	事業報告(振り返り)

<p>■年度修復計画を、前年度末もしくは当該年度当初に策定し、修復業務を外部専門業者・専門家に委託します。</p> <p>■「横浜美術館コレクションフレンズ」プログラムの支援を受けて、コレクションの修復や保全、展示ガイドツールの整備を進めるなど、市民の力も取り込んでコレクションを守ります。</p>	<p>■学芸グループ内で協議し、「横浜美術館コレクション・フレンズ」プログラムの支援を取り入れて、年度内に 5 件の作品修復を実施しました。</p>
---	--

### 3)調査・研究

<p>●作家、作品等に関する学芸員の日常的な調査研究の成果を展覧会の内容に反映させます。</p> <p>●調査研究の成果を、論文または研究報告の形にまとめ、『紀要』として発行します。</p>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<p>■調査研究の成果を反映させ、企画展を年 4 本とコレクション展を 3 期に分けて開催します。</p> <p>■『紀要』を年1回発行し、美術館、博物館、大学などの研究機関に配布し、研究成果を還元します。 発行部数:400 部</p>	<p>■企画展は「マックス・エルンストーフィギュア×スケープ」、「奈良美智:君や僕にちよつと似ている」「はじまりは国芳:江戸スピリットのゆくえ」展、「ロバート・キャパ/ゲルダ・タロー 二人の写真家」展を開催しました。コレクション展は第 1 期、第 2 期、第 3 期を開催しました。</p> <p>■横浜美術館および横浜市民ギャラリーあざみ野の学芸員の論文 2 本を収録した『紀要』を年度末に発刊しました。</p>

## (2) 美術作品等の展示及び活用について

### 1)企画展・コレクション展

<p>●以下の 3 点を念頭に置いて、多彩な企画展を開催し広く美術の普及を図ります。</p> <p>1 他館と連携し、シュルレアリスムに焦点をあてた展覧会を企画します。 ・マックス・エルンストーフィギュア×スケープー 4月7日(土)～6月24日(日) 69日間</p> <p>2 注目度の高い現代美術(現代作家)の展覧会を企画します。 ・奈良美智展 7月14日(土)～9月23日(日) 62日間</p> <p>3 館のコレクションから、日本画や版画、油彩画、写真などを企画展の出品作品に多数含めた企画展を開催します。 ・はじまりは国芳 歌川国芳と近代(仮称) 11月3日(日)～2013年1月14日(月・祝) 58日間 ・ロバート・キャパ展(仮称) 2013年1月26日(土)～3月24日(日) 50日間</p> <p>●コレクション展を開催します。 ・第1期 2012年4月7日(土)～9月23日(日) 131日間 ・第2期 2012年11月3日(日)～2013年1月14日(月・祝) 58日間 ・第3期 2013年1月26日(土)～3月24日(日) 50日間</p> <p>●コレクション展・企画展で、鑑賞会等の教育普及プログラムを実施します。</p> <p>●市民参加型のコレクションの支援プログラム「横浜美術館コレクション・フレンズ」事業を運営します。</p> <p>●地域商業施設や関係組織との連携企画展において、各展覧会の条件・内容に応じて、地域商業施設や関係組織の連携事業の立案・実施に積極的に協力します。</p>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<p>■以下の通り西洋画、現代美術、近代日本美術、写真の企画展を開催し、多様な美術に接する機会を提供します。</p> <p>1 海外のコレクションから貴重な本邦初公開の作品を借用し、展覧会の質をたかめるとともに、集客につなげます。 ・マックス・エルンストーフィギュア×スケープー 入場者見込み 43,000 人</p>	<p>■企画展 年間入場者数見込み 168,000 人のところ 287,118 人の入場者があり、目標を大きく上回りました。 以下の通り、企画展の準備および実施に取り組みました。 「マックス・エルンストーフィギュア×スケープー」 会期:4月7日(土)～6月24日(日) 69日間</p>

・奈良美智展

入場者見込み 55,000 人

2 平成 25 年度以降における海外巡回により横浜美術館の価値を発信します。

無料エリアであるグランドギャラリーに大規模な新作を展示し、展覧会の質をたかめるとともに、集客につなげます。また、カフェスペースを企画展にあわせた仕様とし、統一したコンセプトの下で事業を展開します。

3 コレクションの新たな魅力を引き出す活用により、その存在価値をアピールします。

・はじまりは国芳 歌川国芳と近代(仮称)

入場者見込み 40,000 人

・ロバート・キャパ展(仮称)

入場者見込み 30,000 人

総入場者数:26,697 人(見込み:43,000 人)

横浜美術館および巡回する宇都宮美術館、愛知県美術館の学芸員の協働により、マックス・エルンストの作品を「フィギュア」と「スケープ」というモチーフから検証し直すことで、エルンスト独自の関心のありようを探りました。海外 8 か所、国内 23 か所から作品を借用し、作品総数は 195 点(一部展示替)でした。

また、広報については Twitter を開始し、松井冬子、池辺晋一郎、森村泰昌の協力を得たエルンスト展応援団、FM ヨコハマとタイアップしたアートツアー、親子でエルンストの技法を体験し鑑賞するワークショップを開催するなど、全館をあげて様々な層にアプローチできるよう努めましたが、見込みどおりの集客には結び付けることができませんでした。

「奈良美智:君や僕にちょっと似ている」

会期:7月14日(土)~9月23日(日) 62日間

総入場者数:166,410 人(見込み:55,000 人)

グランドギャラリーに巨大な立体作品を設置するとともに、初の試みとなるブロンズ作品などの新作を展示して展覧会の質を高め、予想を遥かに上回る来館者を迎えることができました。カフェスペースにも作品を出品し、統一したコンセプトの下で事業を展開しました。一方、国内巡回し、アジア諸国にも巡回すべく調整を進めていましたが、国際巡回は作家本人の事情を勘案した結果、実現にいたりませんでした。

「はじまりは国芳—江戸スピリットのゆくえ」

会期:11月3日(土・祝)~1月14日(月・祝) 58日間

総入場者数:37,975 人(見込み:40,000 人)

浮世絵師・歌川国芳の近代感覚にあふれた斬新な造形性が、その一門にどのように受け継がれ、さらに新たな展開を見せていったか、江戸末期から昭和期の日本画、油彩画などの作品などを通して探りました。また、横浜美術館の特徴である創作体験を活かした鑑賞プログラムを、一般の市民と親子の各々に向けて実施し、展覧会を様々な角度から体験していただけるよう工夫しました。なお、カフェ店内に江戸の辻売り屋台や茶屋を設置し、週末には和食のお弁当や、鶴見区の銘菓を用意し、地域との連携も図りました。

「ロバート・キャパ/ゲルダ・タロー 二人の写真家」展

会期:1月26日(土)~3月24日(日) 51日間

総入場者数:56,036 人(見込み:30,000 人)

本展は、キャパ生誕 100 年を記念し、キャパとタローそれぞれの写真作品による二つの「個展」で構成され、約 300 点にのぼる豊富な写真作品と関連資料によって二人の生涯と活動の軌跡を辿りながら、両者の深いつながりと個性の違いを浮かび上がらせました。シーピープラス 2013 との連携については、臨時開館、シャトルバス運行、キャパ展ブース設置、オープニング会場提供およびレクチャー協力など、今までにない深い連携を実現しました。また、展覧会前からの「キャパ・ジャーナル」の発行、

■館蔵品の魅力を分かり易く発信します。横浜らしさと多彩さを両立させたコレクション展を開催し、当館を代表する所蔵品をバランスよく展示します。

横浜美術館を特徴づける主要作品を中心に、収集分野をバランスよく紹介するとともに、まとまった数を擁する作家等を中心にしたテーマ展示を合わせて行い、コレクションの横浜らしさを様々な視点から演出します。また、新収蔵品を積極的に展示します。

「フォト・ヨコハマ 2013」(カメラと写真映像の見本市「CP+」連携事業)の開催にあわせて、写真作品の特別展示を実施します。

学芸員によるプレ・レクチャーの実施など新しい事前広報にも取り組みました。12月には沢木耕太郎氏がキャパに関する新説を発表し、「NHKスペシャル」で取り上げられるなど、時機を得た展覧会として、多方面から注目されました。

#### ■横浜美術館新進作家支援プログラム

「梶井照陰写真展 HARBIN2009-2012」

会期:11月3日(土祝)～11月18日(日)14日間

2007年に開催した「水の情景展-モネ、大観から現代まで」の出品作家であり、五島記念文化財団文化賞平成21年度美術新人賞受賞者である梶井照陰の展覧会を開催しました。

#### ■コレクション展

以下の通り、コレクション展の準備および実施に取り組みました。

#### サイン類の見直し

コレクション展導入部に標題パネルを設置しました。展示内容の解説とともに展示室図面を提示し、鑑賞前に展覧会の全貌を把握できるようにしました。また、写真展示室への導線を明確化するようにバナーを設置し、補助的な誘導サインを設置しました。

会場内のセクション解説も見直し、文字数を減じて級数を上げるなど、内容的、視覚的に読みやすいように工夫をしました。

#### コレクション展 2012-I

会期:4月7日(土)～6月24日(日)

9セクション:279点

同時開催の企画展「マックス・エルンスト-フィギュア×スケープ-」と連動して「シュルレアリスムと写真」のテーマ展示を行いました。

#### コレクション展 2012-II

会期:7月4日(土)～9月23日(日)

4セクション:180点

同時開催の企画展「奈良美智:君や僕にちょっと似ている」と連動して「人の形を見る」というテーマ展示を行いました。奈良美智の旧作と、東西の近代美術を織り交ぜて展示し、来場者にコレクション作品への関心を高めてもらう工夫をしました。

#### コレクション展 2012-III

会期:11月3日(土・祝)～3月24日(日)

3セクション:155点

「光をめぐる表現」と題して、「光」の表現を切り口にしたと特集展示を、第1、2、3展示室で行いました。

「横浜国際音楽祭 NIPPON」と連動して芸術監督の諏訪内晶子氏と音楽と美術のコラボレーションをコレクション展において行うこととなり、共通テーマとして「光をめぐる表現」を設定し、展示室においては、ガラス工芸、油彩画、日本画、写真

<p>■コレクション展、企画展における教育普及プログラムを強化します。企画展の性質に応じて地域商業施設や関係組織との事業連携をはかります。</p> <p>■コレクションの鑑賞と理解及びコレクションの保全や展示ガイドツールの改善に役立てます。</p>	<p>など複合ジャンルの展示を行い、2/19に展示室1～3を使い諏訪内晶子のコンサートを行いました。コレクション展において、音楽と美術のコラボレーションをテーマとした企画は今回が初めての試みでしたが、展示室でのコンサートとして話題を集めただけでなく、展示としても見ごたえがあるものとなり好評でした。</p> <p>写真展示室では、「ロバート・キャパ／ゲルダ・タロー 二人の写真家」展と連動して、「報道写真」に焦点を当てた展示を行いました。</p> <p>■コレクション展、企画展における教育普及プログラムを6月から実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ギャラリートーク」12回(参加者合計193人)</li> <li>・「スライドレクチャー」3回(参加者42人)</li> <li>・「視覚に障がいがある人とない人が共に楽しむコレクション展」3回(参加者35人)</li> </ul> <p>■「夏休み子どもフェスタ2012」</p> <p>子どものアトリエと共同して取り組みました。</p> <p>8/7(火)～8/15(水) 8日間(参加者合計1,602人)</p> <p>於:コレクション展示室</p> <p>個人参加:1,443人、アートクラブツアー:10校実施(参加者132人)、フェスタツアー:2回実施(参加者27人)</p> <p>特記事項:今回も中学校美術教師からなる「アートティチャーズサポーター」及び市民ボランティアである「鑑賞サポーター」の協力を得て協働運営しました。</p> <p>■コレクション作品サポートシート20種と、サポートシート補助点字カード30種を新規作成しました。</p> <p>■弱視用のコレクション解説ファイルを展示室内に用意しました。</p>
--	---

### (3)情報の収集及び情報化、提供及び活用について

#### 1)ニーズに対応した美術情報の提供

<ul style="list-style-type: none"> <li>●資料の収集、整理、保存 <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術に関する図書資料(和書、洋書、和洋展覧会カタログ)、非図書資料の収集、整理、保存を行います。</li> <li>・購入、寄贈および資料交換によって図書資料等を収集します。</li> </ul> </li> <li>●蔵書管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書資料について書誌データの作成、登録を行い、蔵書管理システムに反映させます。</li> <li>・蔵書点検を実施し、所蔵確認を行います。</li> </ul> </li> <li>●資料の提供 <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者からの閲覧申し込みに応じて閉架の資料を出納します。</li> <li>・利用者からのレファレンスに対応します。</li> <li>・センター内に展覧会関連資料コーナーを設置するとともに、映像資料も紹介し、展覧会事業を支援します。</li> </ul> </li> <li>●資料の簡易な修復や非図書資料の整理に、ボランティアを公募し受入れます。</li> <li>●インターネットを通じて広く一般に蔵書検索(OPAC)の公開を行います。</li> <li>●美術情報センターの認知度を上げるための事業に取り組みます。</li> </ul>	
<p style="text-align: center;"><b>達成指標</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>事業報告(振り返り)</b></p>
<p>■資料の収集、整理、保存につとめます。</p>	

・継続図書、和洋美術雑誌を継続して購入し、欠号等が発生しないようにつとめます。

■蔵書点検を年1回実施します。

■美術図書と映像を活用して展覧会事業を支援し、トピック的な「特設資料コーナー」を通年約10種設置します。

■美術情報センターで年間を通してボランティアを受入れます。(7~8人)

■以下の蔵書検索(OPAC)の便を提供し、調査研究の用に供します。

・美術情報センター蔵書検索(OPAC)

・ALC: Art Libraries' Consortium(美術図書館連絡会)8館10室横断検索

■バックヤードツアーなどの普及事業に取り組み、美術情報センターの魅力を伝えます。

・美術館塾受講生へのオリエンテーションや見学会

・市民利用者対象の探検ツアー 年3回

■蔵書点検

10/15(月)~10/24(水)のうち計8日間実施しました。  
(休館日等除く)

■企画展、コレクション展関連資料コーナー

4回設置しました。

■企画展、コレクション展関連ビデオライブラリー資料案内

3回設置しました。

■特設資料コーナー

10種のコーナーを設置しました。

(イギリス美術、植物と美術、パリ1920年、柳宗悦、いわさきちひろ、アンディ・ウォーホル、開館記念、ジョルジュ・ルオー、水墨画、下村観山)

■ボランティア

以下の通り実施しました。

4月から5月:立案・準備

7月:募集

8月以降:活動開始

延べ活動人数:103人

■OPAC

公開中です。

■メールマガジン

計5回掲載しました。

掲載内容

6/8(金)美術情報センター特別整理期間休室

6/27(水)美術情報センターボランティア募集

12/10(月)、22(土)美術情報センター探検ツアー

2/2(土)、2/17 美術情報センター探検ツアー

3/6(水)、3/16 美術情報センター探検ツアー

■横浜美術館ホームページ「お知らせ」欄

計6回掲載しました。

掲載内容

6/2(土)美術情報センター特別整理期間休室

6/26(火)美術情報センターボランティア募集

12/8(土)、22(土)美術情報センター探検ツアー

1/26(土):平成25年度美術情報センターアルバイト募集

2/1(金)、17(日)美術情報センター探検ツアー

3/2(土)、16(土)美術情報センター探検ツアー

■探検ツアー

3回実施しました。(各回定員8人、応募者多数の場合は抽選)

12/22(土)(抽選実施、参加者6人)

2/17(日)(参加者5人)

3/16(土)(抽選実施、参加者5人)

■美術館研修

7/17(火)受講生30名を対象に美術情報センター利用方法

の説明および美術情報センター案内を実施しました。

(4)教育普及に対する取り組みについて

1)美術に親しむ市民の拡大

- 展覧会の開催を通じて、作品の鑑賞を通じた教育普及を行います。
- 近隣住民や近隣企業と連携して、鑑賞会や広報イベントを開催します。
- 他団体と連携した内容の活動を年1回行い社会貢献につなげます。
- 平成23年度に続き、文化庁の「平成24年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」に補助金を申請し、3か年計画で進めている「視覚の障がいのある人と一緒に作る所蔵作品鑑賞サポートプラン」を実施します。
- 所蔵作品の支援プログラム「横浜美術館コレクション・フレンズ」を運営します。

達成指標	事業報告(振り返り)
<p>■ 企画展ごとに作品や作家その他企画内容について、下記のような関連事業を開催し一般の理解を深めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講演会の開催</li> <li>・ ワークシートを活用したプログラム</li> </ul> <p>■ 展覧会と連携した市民のアトリエの講座を年2回開催し市民の作品への興味、理解を促進します。</p>	<p>■ 企画展ごとの講演会</p> <p>「マックス・エルンスト—フィギュア×スケープ—」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パネルディスカッション「マックス・エルンストのフィギュアが意味するもの」講師:鈴木雅雄と3館学芸員 4/29(日)(参加者70人)</li> <li>・ ギャラリートーク 4/27(金)、5/25(金)、6/22(金) (参加者合計73人)</li> </ul> <p>「奈良美智:君や僕にちょっと似ている」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アーティスト・トーク 講師:奈良美智氏 9/1(土)(参加者237人)</li> <li>・ トーク・シリーズ「20世紀末・日本の美術—何が語られ、何が語られなかったのか?」 講師:中村ケンゴ氏、眞島竜男氏、永瀬恭一氏 7/28(土)(参加者60人)</li> <li>・ トーク・シリーズ「ニッポンの思想×ニッポンの美術=奈良美智?」 講師:佐々木敦氏 8/11(土)(参加者53人)</li> <li>・ トーク・シリーズ「過去・現在・未来、一歩近くで見る、奈良美智」 講師:加藤磨珠枝氏 8/18(土)(参加者97人)</li> <li>・ 奈良美智展×田中菜穂ミニライブ 8/27(月)(参加者42人)</li> </ul> <p>「はじまりは国芳—江戸スピリットのゆくえ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講演「絵描きたちの職人魂—国芳から芳年、暁斎、清方へ」 講師:山下裕二氏 11/18(日)(参加者155人)</li> <li>・ 講演「僕はこう見る—ヨコオ流 絵の見方」 講師:横尾忠則氏 12/22(土)(参加者180人)</li> </ul> <p>「ロバート・キャパ/ゲルダ・タロー 二人の写真家」展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 記念講演会「青春のキャパ」 講師:沢木耕太郎氏 2/3(日)(参加者290人)</li> <li>・ 3作品上映会「Capa &amp; Films」 2/23(土)-24(日)(参加者各223/160/137名)</li> </ul> <p>■ 展覧会と連動した市民のアトリエ講座</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ MAXに楽しむエルンストの芸術 5/13(日)、20(日)(参加者合計28人)</li> <li>・ 視覚に障がいのある人とない人がともに楽しむエルンストの芸術 6/3(日)、10(日)(参加者合計29人)</li> <li>・ お話しと摺りの実演「大正期に花開いた新たな浮世絵『新</li> </ul>



■近隣在住・在勤者が横浜美術館により親しみ、気軽に来館できる機会を提供します。(近隣プログラム)

■産業や環境問題など市民生活に密着した問題に取り組む活動団体と連携し、新たな市民層へ美術との接点を広げる講座を実施することで市民に美術館の存在をアピールします。

版画』講師：渡邊章一郎氏、渡辺英次氏 1/6(日) (参加者 36 人)

・観賞ワークショップ「撮られるイメージ・創られるイメージ」 2/9(土) (参加者 18 人)

■展覧会と連動した子どものアトリエ講座

・親子で鑑賞「浮世絵、摺師の技を見よう」講師：林勇介氏 11/23(金・祝) (参加者 17 組)

・「つくって！みて！親子でたのしむ展覧会」 12/9(日) (参加者 10 組)

■近隣在勤者が参加し横浜美術館と展覧会に親しむ機会を 4 回開催しました。

・MMcc横浜美術館ナイト

マックス・エルンスト展 5/30(水)(参加者 135 人)

奈良美智展 9/14(金)(参加者 178 人)

はじまりは国芳展 11/30 (金) (参加者 122 人)

ロバート・キャパ／ゲルダ・タロー展 2/13(水) (参加者 138 人)

■FMヨコハマ「モーニングステップス」DJ の栗原治久氏、キャスターの鳥越雅子氏が展示室で学芸員と共に作品について語る、「マックス・エルンスト展」ギャラリートゥアーを実施しました。5/19(土) (参加者 105 人)

■YES(ヨコハマ・エコ・スクール)の協働パートナーである横浜信用金庫と連携し「小学生エコ教室」を開催、作品を横浜信用金庫に展示しました。8/1(水) (参加者数 174 人)

■学校連携事業

・YSFHで学ぶ高校生たちの天体写真展

「マックス・エルンスト展」会期中の金環蝕にちなみ、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校(YSFH)天文部の写真展を同校の科学技術顧問・遠山幸氏の協力を得てカフェ小倉山で開催しました。6/9(土)～6/24(日)

■横浜市教育委員会所管「子どもアドベンチャー2012」プログラムの一環として、『夏休み・子ども探検ツアー』を開催しました。子どもたちが普段は見ることの出来ない美術館の舞台裏を探検し、展覧会がどんな人々によって開催されているかを取材、午後は探検レポートを作り、図工にも挑戦しました。8/22(水)23(木) (参加者合計 81 人)

■新設された教育普及プロジェクトチームが中心となり、展覧会に関連した教育普及事業を実施しました。

・「夜の美術館でアートクルーズ」計 8 回(参加者合計 226 人)。

・展覧会に合わせ「おとな&子どものための鑑賞優待」の日を合計 24 日間実施し、親子連れが気軽に来館できる機会を提供しました。

・「おとな&子どものための鑑賞優待」の日に合わせて、来館した親子向けに展覧会鑑賞シート(A4 サイズ)を無料で配布しました。

・学芸グループと協力して音声ガイド原稿を執筆しました。音声

■「視覚の障がいのある人と一緒に作る所蔵作品鑑賞サポートプラン」

平成23年度の取り組みで得られたユーザーからのフィードバックを視覚に障がいのある人の助言を得ながら解析し、その成果をふまえて鑑賞サポートツール、鑑賞会プログラム、展示環境のさらなる改良に取り組みます。

■所蔵作品の保存と展示に焦点をあてた支援プログラムを発足し、参加者150名を目標に募集します。

■年に2回フレンズの交流会を開催し、コレクションに対する理解を深めてもらうとともに、支援金の使途を報告します。

ガイドは次のとおり貸出しされ、活用されました。

「はじまりは国芳」4,278 台貸出

「ロバート・キャパ/ゲルダ・タロー二人の写真家」5,768 台貸出

・親子向け鑑賞プログラムを実施しました。

マックス・エルンスト展関連プログラム「つくって！みて！親子でたのしむ展覧会」5/26(土)2 回実施(参加者合計 35 人)

「親子でたのしむ奈良美智展」7/31(火)、8/6(月)(参加者合計 71 人)

はじまりは国芳展関連プログラム「つくって！みて！親子でたのしむ展覧会」12/9(土)2 回実施(参加者合計 21 人)

・小学生高学年以上向けに、奈良美智展鑑賞ワークショップ実施「君や 僕に ちょっと似ている」8/20(土)、21(日)(参加者合計 25 人)

・高校生以上向け「撮られるイメージ・創られるイメージ」ワークショップ 2/9(土)(参加者合計 18 人)

■NPO エイブル・アート・ジャパンが中心になって取り組む「美術用語の手話化委員」に参加しました。報告会&手話付ギャラリートークを実施しました 12/2(日)(参加者 54 人)

■「視覚の障がいのある人と一緒に作る所蔵作品鑑賞サポートプラン」

・鑑賞サポートシート新規 20 種作成。

・サポートシート補助用点字カード 30 種作成。

・「サポートシートでたのしむ横浜美術館コレクション」11/25(日)、12/16(日)、2/10(日)、3/3(日)の計 4 回実施。

■急な坂スタジオとの共同主催でダンスパフォーマンス「岩淵 貞太 in 横浜美術館」を開催し、コレクション作品の新たな魅力発見の機会につなげました。2/17(日)、18(月) 計 3 回(観覧者 240 人)

■所蔵作品の保存と展示に焦点をあてた支援プログラム「横浜美術館コレクション・フレンズ」の参加者は 176 人で目標を達成しました。

参加者募集の一環として「横浜美術館コレクション・フレンズ・トーク」を開催しました。

・山田五郎さんに聞く横浜美術館コレクションの愉しみ方～サルバドール・ダリを中心に～ 4/10(火)(参加者 210 人)

・美術家 森村泰昌 「美術作品は、記憶と忘却の間を漂っている」 3/16(土)(参加者 96 人)

■「横浜美術館コレクション・フレンズ」レクチャー&交流会を 1 回実施しました。9/8(土)(参加者 50 人)

■コレクション担当学芸員によるギャラリートーク・リレーを継続して開催しました。

6/6(水)(参加者 20 人)、6/9(土)(参加者 19 人)、7/18(水)(参加者 15 人)、7/21(土)(参加者 15 人)、11/14(水)(参加者 15 人)、11/17(土)(参加者 11 人)、2/6(水)(参加者 16 人)、2/9(土)(参加者 9 人)

2)市民の創作活動等への支援

- 市民のアトリエにおいて各種講座を開催します。
- 美術の初心者向けのワークショップを開催します。
- 地域（他団体）と連携し、作家や職人、専門家による講座を開催します。
- 版画室、平面室、立体室の施設特性を生かしたオープンスタジオを開催します。
- 展覧会関連の内容の講座を開催します。
- 現代の作家や制作を紹介する講座を開催します。

達成指標	事業報告(振り返り)
<p>■下記の各種講座につき、年間5,000人の参加を目指します。</p> <p>■美術の初心者向けのワークショップ 10回                      様々な人へ開かれた内容や、美術が苦手な人の参加を促し、美術の普及に務めます。</p> <p>■地域(他団体)と連携をした講座 5回                      環境や産業等と関連した講座を開催し、美術館と社会をつなげます。</p> <p>■オープンスタジオ 25コース                      市民の自律的な創作を支援します。</p>	<p>事業実施回数は、事業計画に沿って実施し、上半期(4月～9月)の参加者延べ人数 2,660 人、下半期(10月～3月)の参加者延べ 3,124 人(3月22日現在)合計 5,784 人                      年間利用者延べ人数目標の 5,000 人以上(12歳以上)を達成しました。</p> <p><b>【講座達成状況】</b></p> <p>■ ワークショップ 様々な初心者へ参加を促しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「版画基礎コース」17 人7回 6 コース</li> <li>・「初めての絵画教室」15 人 6 回 2 コース</li> <li>・今日から始める「絵画の時間」18 人 6 回 1 コース</li> <li>・陶芸の楽しさ「暮らしの器」10 人 4 回 3 コース</li> <li>・中学生講座「粘土で野菜をつくりましょう」                          10 人 1 回 1 コース</li> <li>・小さなブロンズ作品づくり 10 人 2 回8コース</li> <li>・黒泥土でつくる小さな彫刻 12 人3回1コース</li> <li>・ネオライムストーンで彫刻制作を楽しむ                          15 人 12 回1コース</li> <li>・視覚に障がいのある人とない人がともに楽しむ美術の時間 20 名1回1コース</li> <li>・ゴム版画でつくる季節のカード10人3回1コース</li> </ul> <p>■地域(他団体)と連携講座</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「陶芸見学『井上良斎(三代)が残した登り窯』」30 人 1 回                          井上良斎(三代)の作品(コレクション展)鑑賞の後、窯場を見学しました。また、横浜市南区の「永田の自然を守る会」の管理地でもある良斎の窯場跡及び窯場周辺に残された良斎の愛した樹木や草花等が残る庭を見学しました。</li> <li>・横浜美の職人 大倉陶園の絵付師によるチャイナペインティング 30 人1回1コース</li> <li>・横浜美の職人 マイスターによる木工塗装 実演&amp;参加者体験 15 人1回1コース</li> <li>・木による表現「横浜のクスより」 10 人 10 回1コース</li> <li>・木工(横浜の木)「ボタン、お皿、イスづくり」12 人8回1コース                          横浜市の公園で伐採を余儀なくされた木(横浜市環境活動支援センター協力)を使用して彫刻や木工等の表現、制作を試みました。</li> <li>・横浜美術大学連携講座 所蔵作品の鑑賞と石彫1コース                          地域美術大学との連携を試みました。</li> </ul> <p>■オープンスタジオ                      専門施設を活かして自主的な創作を支援しました。</p>

<p>■展覧会関連の講座 2回 展覧会出品作への興味喚起、理解を促進します。</p> <p>■現代の作家や技術を紹介する講座 15回 現代の美術への理解を広げます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「オープNSTAジオ平面室人体クローキヤ」20人 10回6コース</li> <li>・「オープNSTAジオ平面室人体を描く」18人 4回4コース</li> <li>・「オープNSTAジオ立体室テラコッタ」10人 6回6コース</li> <li>・「オープNSTAジオ立体室木の作品」10人 6回5コース</li> <li>・「オープNSTAジオ版画室」1回17人第1期火曜、水曜、土曜コース、第2期水曜、土曜コース、第3期火曜、水曜、土曜コース全8コース</li> </ul> <p>■展覧会関連講座 マックス・エルンストフィギア×スケープ展関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・MAXに楽しむエルンストの芸術 16人 2回1コース</li> <li>・視覚に障がいのある人とない人がともに楽しむエルンストの芸術 16人 2回1コース</li> </ul> <p>コレクション関連講座</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陶芸窯見学「井上良斎(三代)が残した登り窯」30人1回 「はじまりは国芳」展関連</li> <li>・「新版画」ーお話と摺りの実演ー40人1回</li> </ul> <p>■現代の美術への理解を広げる講座、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小さなブロンズ作品づくり 10人 2回 8コース(初心者の参加促進の再掲)</li> <li>・木による表現「横浜のクスより」10人 10回 1コース(地域と連携講座の再掲)</li> <li>・油絵技法講座 レンブラントの時代(17世紀)の技法で描く 18人 10回 1コース</li> <li>・黒泥土でつくる小さな彫刻 12人 3回 1コース(初心者の参加促進の再掲)</li> <li>・コラージュでつくる絵画 日常世界にひそむ不思議な感覚 16人3回1コース</li> <li>・視覚に障がいのある人とない人がともに楽しむ美術の時間 20人1回1コース(現代作家)</li> <li>・デッサン考察(象鯨スタッフ)15人8回1コース</li> <li>・黒井健の「絵本の世界を楽しむ」18人4回1コース</li> <li>・木版画伝統摺り道具 ばれんを学ぶ聴講 18人1回 ばれんをつくる 12人7回</li> </ul> <p>■市民のアトリエアウトリーチ 横浜市芸術文化教育プラットフォーム(中学校2校)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市立本郷中学校2年生6クラス 2日間 「はじまりは国芳」関連内容 浮世絵版画作品紹介、鑑賞について、摺り師の実演、葉書サイズ現代木版画多色摺り体験(全員)。</li> <li>・横浜市立汐見台中学校1年生5クラス 2日間 横浜美術館所蔵作家 大島康幸氏の現代彫刻制作について、スライドによる作品紹介、大きな彫刻を搬入し作品鑑賞、制作、道具の紹介、木彫体験(全員)。</li> </ul>
--	--

### 3) 子どもに対する取り組み

- 子どものアトリエにおいて、各種講座を開催します。

- 個人の造形講座を開催します。
- 学校教育と連携したより充実したプログラムを実施します。
  - ・学校のためのプログラム
 

横浜市内の幼稚園・保育園35園、小学校35校、特別支援学校+区ごとの個別支援学級団体+各種学校20団体を対象に、素材と関わるワークショップ、および鑑賞活動を行います。
- 教師のためのワークショップを開催します。
- 親子のフリーゾーンを開催します。
- 教師との連携を強化します。
  - ・アートティーチャーズデー
 

企画展ごとに市立小・中・高校の美術教師を対象としたレクチャーを開催し展示会の周知に務めます。
  - ・講演・研修 放課後や夏休み期間を利用し教師や学生への研修を積極的に行います。
  - ・学校と連携して鑑賞教育への導きを行います。
- 夏休み子どもフェスタ2012を開催、夏休みを活用した鑑賞プログラムを実施します。中学校の美術教師からなる「アートティーチャーズサポーター」と協働して小・中学生への対応をします。
- 財団で取組む「子ども事業連絡者会議」に連動し、子ども事業の情報集約、「ティーチャーズプロジェクト」などに取り組みます。

達成指標	事業報告(振り返り)
<p>■魅力ある講座を企画・開催し、子どもの育ちを支援するとともに、美術への興味や感心につなげます。</p> <p>■子どものアトリエ講座定員・定数の100%確保を目指します。 年間22講座開催(定員550名)</p> <p>■学校現場と連携しながらの継続的展開により、子どもの健全な内面的成長への支援を目指します。 年間90日開催</p> <p>■子どものアトリエでの教育活動の考え方や手法を広く学校、</p>	<p>事業実施回数は年間の事業計画に沿って実施し、目標参加人数を達成しました。</p> <p>【達成状況】</p> <p>■個人講座22講座終了。定員500人に対し567人113%の参加(のべ参加者1,385人) 幼児(年長)小学校低学年、高学年の年齢的カテゴリー別に、描画的講座、粘土的講座、工作的講座を各種開催しました。基本的に3回連続で一講座。その他、きっかけづくりやじっくり取り組む講座など目的別に1回講座、6回の長期講座も設定しています。抽選により参加者を決定、年間平均倍率は3倍でした。</p> <p>■学校のためのプログラム 90団体(参加者合計6,460人) (内訳)幼稚園・保育園43園2,371人、小学校25校2,347人、養護・特別支援学校および区毎の個別支援学級合同19団体1,595人、各種学校3校147人 ※教師との協議により震災対策として区毎の個別支援学級の1回の参加人数を一団体あたり100人未満になるよう要請しました。</p> <p>■学校のための試行プログラム 5団体(276人) 学校のためのプログラム以外での研究や試行を目的とした自主的な取り組み(5団体276人)を行いました。 ・3/1(金)6(水)コレクションをもとに学校と連携した鑑賞教育を模索。参加2校合計167人 ・6/11(月)聖坂養護学校38人 ・9/29(土)NPO法人母里子ネット(大人の重度心身障がい者)32人 ・3/16(土)神奈川県盲ろう者と家族の会39人</p> <p>■教師のためのワークショップ</p>

幼稚園等の現場の指導者へ普及し連携の礎とします。  
春期講座、夏期講座各2日間(定員各40名)

■学校や教師との連携の強化

社会教育施設である美術館が、学校教育施設の教師と連携することにより子どもの成長をより密接に、多様な形で支援します。

・アートティーチャーズデーでの来館を期に、市内の図工科、美術科教師の美術展理解を促進し、最新情報の子どもたちへの周知を働きかけます。

■親子のフリーゾーンを子どもの意欲を育てる「子育て支援」と位置づけて親子に開放します。横浜美術館への子ども達の入口としての役割を果たすとともに若い子育て世代と美術館とをつなぎます。  
年間42回開催

幼児教育、初等教育に携わる指導者を対象に、夏期講座、春期講座を開催しました。4日間(参加者合計250人)達成率125%(定員各講座100人)  
夏期講座(のべ参加者154人)  
テーマ:「表現への導き」について  
7/28(土)「えのぐで描こう」「粘土でつくろう」  
7/29(日)「かみでつくろう」講演「幼児の育ちと造形」  
春期講座(のべ96人参加)  
テーマ:「素材や道具に楽しく出会う」  
3/23(土)「えのぐで描こう」「粘土でつくろう」  
3/24(日)「かみでつくろう」講演「幼児の育ちと造形」

■研修事業

- ・横浜市私立幼稚園協会港北支部保育士研修会「幼児期における造形活動の理論と実践」5/9(水)、6/13(水)(参加者延べ82人)
- ・神奈川県公立幼稚園新規採用教員研修講座開催。「幼児への指導の理論と実践」5/15(火)(参加者14人)
- ・横浜市戸塚区図画工作研究会研修「鑑賞について」5/16(水)(参加者40人)
- ・横浜市磯子区保育士会研修「保育の中の造形あそび―手を豊かにする活動―」6/23(土)(参加者80人)
- ・夏季実技研修会を横浜市小学校図画工作教育研究会の依頼により実施。7/25(水)、27(金)(参加者合計74人)
- ・第27回全国私立幼稚園連合会関東地区教員研修 神奈川大会における「神奈川の特徴を活かしたフォーラム/幼児の育ちと造形～子どものアトリエの造形体験」を、神奈川県私立幼稚園連合会の依頼により担当。8/3(金)(参加者90人)
- ・城西国際大学インターン生研修7/22(参加者15人)
- ・磯子区幼稚園協会研修12/15(土)(参加者72人)
- ・明德短期大学保育科研修12/18(火)(参加者16人)
- ・東京都市大学児童学科研修1/21(月)(参加者19人)

■アートティーチャーズデー

年間4回合計91人参加

- ・「マックス・エルンスト」展4/21(水)(参加者16人)
- ・「奈良美智」展7/21(土)(参加者36人)
- ・「はじまりは国芳展」11/10(土)(参加者24人)
- ・「ロバートキャパ/ゲルダタロー展二人の写真家」2/2(土)(参加者15人)

■鑑賞その他 戸部小アートクラブ12/11(火)近隣小学校の課外クラブ受入れ(参加者22人)

■親子のフリーゾーン

えのぐ、粘土、紙工作で自由に遊べるコーナー。特に夏季には中庭での絵の具遊びが人気でした。今年度は冬季も入場者数が伸びたのが特徴です。  
年間42回(参加者合計23,066人/1回平均550人)

■企画展開連ワークショップ

- ・「つくって！みて！親子で楽しむ展覧会」

<p>■夏休みに多数来館する小、中学生をコレクション展鑑賞への導きを行います。美術教師と連携して行う事により、親しみやすい導きを可能とし、学校教育へのフィードバックを目指します。</p> <p>■財団施設の子ども事業を集約して配信する「子どもアートナビ(仮称)」に情報提供し、広報を効率化します。また美術館が先行して行ってきた教師との連携事業を財団全体の取り組みとして広げます。24年度は教師を交えた年間4回予定されている財団主催の「子ども事業企画会議」に参加します。</p>	<p>マックス・エルンスト展関連プログラム「つくって！みて！親子でたのしむ展覧会」5/26(土)2回実施(参加者合計35人)</p> <p>はじまりは国芳展関連プログラム「つくって！みて！親子でたのしむ展覧会」12/9(土)2回実施(参加者合計21人)</p> <p>■「夏休み子どもフェスタ2012」 8/7(火)～8/15(水)8日間(参加者合計1,602人) 於:コレクション展示室 個人参加:1,443人、アートクラブツアー:10校実施(参加者132人)、フェスタツアー:2回実施(参加者27人) 特記事項:今回も中学校美術教師からなる「アートティチャーズサポーター」及び市民ボランティアである「鑑賞サポーター」の協力を得て協働運営しました。 ※教育プロジェクトチームと共同して取り組みました。</p> <p>■財団中期経営計画における「子ども事業企画会議」に参加。6月より横浜市内の文化施設情報をあつめた「ヨコハマ・アート・ナビ」の中の子どものためのアートと情報サイト「ヨコハマ・コードモ・アート・ナビ」(通称コナビ)開設に協力しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財団新人職員および各館「子ども事業」担当者研修を子どものアトリエにて開催しました。7/30(月)(参加者16人)</li> <li>・7月、11月、2月の3回開催された「子ども事業企画会議」に参加。「ヨコハマコードモアートナビ」の運営に関し改善案を検討しました。</li> </ul> <p>■企業連携プログラム「Heart to Art」に連携しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生エコ教室「ポスターづくり」8/1(水)(参加者84人)</li> <li>・地域の夏祭り「天王町こどもフェスタ」にて木の工作教室アウトリーチを行いました。8/25(土)(参加者250人)</li> <li>・港南区「室の木幼稚園」へアウトリーチを行いました。12/17(月)(参加者93人)</li> <li>・親子のフリーゾーンのクラフトコーナーで3回のテーマ別ワークショップを提供しました。</li> </ul> <p>■子どものアトリエ企画運営委員会の開催し、年間事業報告を外部委員8名に行いました。3/9(土)</p> <p>■子どものアトリエ関連の講座、催事の年間利用者数は34,097人でした。</p>
--	--

(5)横浜トリエンナーレについて

1) 次回(第5回2014)トリエンナーレ本展について

<p>■横浜トリエンナーレ2014のアーティスト選定に必要な基礎的調査を担当学芸員が行います。</p> <p>■次回以降の横浜トリエンナーレ開催にむけた準備を行います。</p>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<p>■横浜トリエンナーレ2014の出品作家および作品について、情報を収集、提供し、企画立案に寄与します。</p> <p>■次回以降の横浜トリエンナーレにむけて、横浜トリエンナーレ2011の展覧会結果を分析し、受容層の指向などを次回展に生かします。</p>	<p>■現代美術に関する下記の基礎調査を学芸員が行いました。 Documenta13(ドイツ、カッセル)、第7回アジア・パシフィック・トリエンナーレ(オーストラリア)、メディアシティソウル2012/第9回光州ビエンナーレ/釜山ビエンナーレ(韓国)、別府現</p>

<p>■国内外の主要国際展事務局、美術館機関、主要キュレーターとの連絡を密にし、次回横浜トリエンナーレの基盤整備の一助とします。</p>	<p>代芸術フェスティバル(日本)、他</p>
--	-------------------------

2) トリエンナーレ組織委員会事務局運営について

<p>■横浜トリエンナーレ組織委員会による事務局運営の一部を担います。          ■次回展以降の事務局継続にむけたシステムおよびインフラ整備について協力します。</p>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<p>■次回展以降の開催に向け、本展の開催にかかる事務局体制及び、収支の検証を行い、大型国際展を継承するための組織体制及び財源計画の確立を目指します。</p>	<p>■次回展に向けた横浜美術館の役割について財団に新設された横浜トリエンナーレグループと協議を行いました。          ■グッズ開発のスケジュールについて提案を行いました。          ■横浜トリエンナーレ組織委員会事務所のネットワーク整備に助言及び支援を行いました。          ■ヨコハマトリエンナーレ 2014 プレイメント「オーストラリア発、国際展における次世代教育普及プログラムの事例紹介『現代アートと子どもをつなぐキッズ APT』」を教育普及グループが協力し実施しました。</p>

(5) その他美術の振興に関することについて

1) 市民との協働・人材育成の推進

<p>●ボランティアの事業参画          美術情報センター、子どものアトリエ等の事業において、ボランティアが参画する場を提供します。          ●インターンを受入れ、実地の経験を提供します。          ●美術館研修・学芸員研修          横浜美術館塾のプログラムのひとつに位置づけられている美術館研修のカリキュラムを立案し、人材の育成に貢献します。</p>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<p>■美術館の各事業で、随時ボランティアを募集し市民参画の機会を創出します。          ・子どものアトリエ「親子のフリースペース」          4月募集:約30人          ・美術情報センター          4月から5月:立案・準備          6月から7月:募集 7~10人          8月から3月:活動          延べ活動人数:約100人程度</p> <p>■インターンにアトリエ活動の理論と実践を教授し、教育現場等で活躍する人材育成に貢献します。          ・子どものアトリエ固有のインターン</p>	<p>■様々な場面でボランティアの参加を得て、充実した事業内容を実現しました。          ・子どものアトリエボランティア 22人          (活動期間4月~2013年3月)          ・美術情報センターボランティア 延べ103人          (活動期間8月~2013年3月、1人あたり14~15日活動)          ・夏休み子どもフェスタ鑑賞サポーター(市民ボランティア) 4人(活動期間7月~8月)          ・夏休み子どもフェスタ中学校美術教諭鑑賞サポーター 14人(活動期間7月~8月)          ・第一次鑑賞パートナー(市民ボランティア)5人(活動期間11月~3月)          ・第2次鑑賞パートナー(市民ボランティア)11人(活動期間1月~3月)          ■長期的に当館事業に関わるインターンを採用、現場が経験できる場として提供し、次世代育成につなげました。          ・子どものアトリエ インターン 9人</p>



<p>4月募集:約5人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものアトリエ大学連携インターン</li> </ul> <p>8月募集:城西国際大学学生 約5名</p> <p>■美術館研修・学芸員研修</p> <p>美術館の現場に即した魅力的なカリキュラムを立案し、全国の美術館における次代の人材育成に貢献します。</p> <p>■美術館研修を夏季に1回実施します。</p>	<p>(活動期間 5月～3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・城西国際大学企業実習生受け入れ 19人</li> </ul> <p>(活動期間 7月～8月)</p> <p>■「美術館研修」を学芸グループと協力して実施しました。7/16(月・祝)～28(土)(10日間)(参加者 30人)</p> <p>■「美術品取扱研修」を日本通運から講師を招き、学芸グループと協力して実施しました。1/26(土)～28(月)(3日間)(参加者 16人)</p> <p>■プロの指導でモノづくりを学びながら市民のとのコミュニケーションを拡大し、そこで習得した「技術」を横浜美術館で活用する市民協働プログラム「木工倶楽部」を開催し、夏のカフェ・イベントと連携した木工制作に取り組みました。7/2(月)～4(水)(参加者 5人)</p>
--	--

2) 文化専門施設との連携事業の展開

<p>●横浜市の中期計画および財団の中期経営計画を見据え、専門文化施設の連携を進めます。</p> <p>みなとみらいホール、能楽堂、にぎわい座、赤レンガ等財団の他の専門文化施設との施設横断的な定例的連絡会に参加します。</p> <p>●演劇、ダンスなど他ジャンルをつなぎ、企画展に連動した関連事業を開催実施します。</p> <p>●他施設、組織との連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学と連携して美術教育プログラムの立案および広報に取り組みます。</li> <li>・三溪園との協働により、同園が所蔵する未刊行の史料の調査および三溪旧蔵作品のデータベース化に取り組みます。</li> </ul>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<p>■専門文化施設間の意見交換、情報共有を進め、相互の専門性を活かした連携事業実施や、共通機能を集めた効果的な事業実施を検討し、事業・広報連携の実施につなげます。</p>	<p>■専門文化施設間連携</p> <p>【横浜みなとみらいホール】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・-木之下写真展「山田一雄・音と人」-を共同制作し同ホールホワイエに展示を行いました。展示には横浜美術館学芸員が関わり、専門性が活かされました。展示期間 8/28(火)～9/9(日)</li> <li>・近隣アートプログラム「MMcc横浜美術館ナイト」でミニコンサートやサイレントシネマ上映を展覧会鑑賞会と組み合わせ、両館の専門性を活かした連携を行いました。</li> <li>・観覧後のお客さまや近隣の方々などに美術館の空間でオルガン演奏を楽しんでいただく取り組みを実施し、横浜美術館および横浜みなとみらいホールの認知度アップにつなげました。</li> </ul> <p>7/20(金) オルガニスト:山口綾規(参加者 80人)</p> <p>8/17(金) オルガニスト:野田美香(参加者 87人)</p> <p>11/16(金) オルガニスト:荒井牧子(参加者 65人)</p> <p>2/22(金) オルガニスト:山口綾規(参加者 104人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「クラシック・ヨコハマ 2012」協力事業を実施しました。</li> </ul> <p>音あそびワークショップ 11/18(日)(参加者 90人)</p> <p>名曲カフェ小倉山～MMホールの名演奏の記録録音から～11/19(月)・20(火)・21(水)・26(月)・27(火)・28(水)(参加者合計 45人)</p> <p>横浜美術館グランドギャラリー・コンサート～フェアリー誕生日</p>

<p>■美術以外のジャンルと連携した関連事業を立案し、来館者の関心を高めるとともに、他ジャンルのファンの来館を促進します。</p> <p>■大学との連携により、コレクション展の独自のホームページを作成します。</p> <p>■三溪園との連携による原三溪関連資料の調査とデータベース化へ取り組み、今後の研究の基盤整備を行います。</p>	<p>によせて～ 11/23(金・祝)(参加者 200人)  金の卵たちのサロン・コンサート 11/24(土)(参加者 95人)  コンサートに先立ちポスター制作のワークショップを開催しました。(参加者 5人)完成したポスターはミュージアムカフェで展示しました。</p> <p>・横浜みなとみらいホールとの専門館連携で、「芸術監督:諏訪内晶子 国際音楽祭 NIPPON」を共催し、音楽祭の一部のコンサートを、コレクション展示室及びグランドギャラリーで開催しました。</p> <p>展示室:2/15(金)(参加者 96人)  グランドギャラリー:2/16(土)2回公演(参加者合計 480人)</p> <p><b>【横浜市民ギャラリーあざみ野】</b></p> <p>・「マックス・エルンスト-見える自然と見えない自然」を同ギャラリーで担当学芸員がレクチャーを行いました。5/26(土)</p> <p>・「石川真生展」に当館学芸員が監修協力しました。</p> <p>・同展と「ロバート・キャンパ/ゲルダ・タロー二人の写真家」が相互連携し、入館者数増に貢献しました。</p> <p>■他ジャンルとの連携</p> <p>Dance Dance Dance@YOKOHAMA2012 プレイイベントを実施しました。</p> <p>・Livespire シネマ・バレエ 2days としてグランドギャラリーに設置したメガスクリーンで映画を上映しました。</p> <p>4/13(金) ロメオとジュリエット(参加者 72人)  4/14(土) 白鳥の湖(参加者 65人)</p> <p>■急な坂スタジオとの共同主催でダンスパフォーマンス「岩渕貞太 in 横浜美術館」を開催しました。2/17(日)、18(月)計3回(観覧者 240人)</p> <p>■三溪園との連携による原三溪関連資料の調査とデータベース化へ取り組み、今後の研究の基盤整備を行っています。</p>
---	--

**■施設の運営に関する振り返り■**

(1) 施設の提供・利用について

1) 利用者の利便性を踏まえた適切な施設の提供

- 休館日を活用して、保守点検等施設維持管理に必要な業務を効率的に実施します。
- 施設維持管理業務と調整しながら、施設活用事業を開催します。
- 駐車場の空車枠を活用し、みなとみらい地区の駐車場の利便性向上に貢献します。

達成指標	事業報告(振り返り)
<p>■業務の基準に基づき保守点検等を確実にを行い、施設の安全な維持管理に努めます。</p> <p>■休館日を活用した協賛金獲得目的事業などを行い、収益増につなげます。</p>	<p>■業務の基準に基づいた保守点検を計画通り実施しています。</p> <p>■休館日等を活用した協賛金獲得目的事業を行いました。</p> <p><b>【特別鑑賞会】</b></p> <p>・日本糖尿病学会 5/17(木)、国際幹細胞研究学会 6/15(金)、シーピープラス 2013 1/31(木)、日本循環器学術学会 3/14(木)</p> <p><b>【企業誘致による広報活動】</b></p> <p>・フォルクス・ワーゲン試乗会 9/6(木)及び 9/19(水)～21(金)</p>

<p>■ 駐車場利用料金収入目標 34,730 千円</p>	<p>・ HONDA 試乗会 11/13(火)～16(金)          ■ 駐車場利用料金収入は 30,509 千円でした。</p>
--------------------------------	---

2) 施設の有効活用について

<p><b>【レクチャーホールの利用促進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● レクチャーホールの空き状況をホームページで公開します。また平日枠限定の割引プランの販売し利用促進を図ります。</li> <li>● レクチャーホールを活用した自主事業を展開します。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 展覧会関連講演会の開催</li> <li>・ 団体客を対象とした学芸員によるレクチャー</li> </ul> </li> </ul> <p><b>【グランドギャラリーの空間を活かした活用】</b></p> <p>一昨年度末以降グランドギャラリーの消防設備として湿式配管による開放型のスプリンクラーヘッドが導入されたことにより、消火能力が向上し、作品展示やイベント開催上の制約が改善されました。このためグランドギャラリーの空間を展示や事業に、これまで以上に有効に活用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 企画展と連動した関連事業の会場として利用します。</li> <li>● Heart to Art 事業で協賛いただいた企業と連携した活動の場として活用します。</li> </ul> <p><b>【8階施設の魅力を活かした活用】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 50名規模の中規模の鑑賞会を定期的実施します。芸術文化活動の場所として、主催、共催形態の商品を開発、販売します。</li> <li>● 横浜美術館塾の拠点とします。</li> </ul> <p><b>【円形フォーラムの積極活用】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 会議等の内部利用のみならず、外部とも連携しながら積極的な活用を推進します。</li> </ul>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<p><b>【レクチャーホールの利用促進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 利用率70%を目指します。</li> </ul> <p><b>【グランドギャラリーの空間を活かした活用】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 消防設備の設置により活用可能になったスペースを活かし、美術作品の展示に活用します。</li> <li>■ 椅子やパンフレットラックなどの什器やサインスタンドの配置を通して、快適なエントランス空間としての活用を進めます。</li> <li>■ 企画展と連動したイベントや、外部と連携した事業に活用し、協賛獲得の一助とします。</li> </ul>	<p><b>【レクチャーホールの利用促進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 平日枠限定の「練習プラン」が利用率確保に貢献しました。レクチャーホール利用率 85%</li> </ul> <p><b>【グランドギャラリー】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 無料でアクセスできるエリアの特徴を生かした活用を行いました。</li> <li>・ Dance Dance Dace@YOKOHAMA2012プレイベントとして、メガスクリーンでの映画上映を行いました。          4/13(金) ロメオとジュリエット(参加者 72 人)          4/14(土) 白鳥の湖(参加者 65 人)</li> <li>・ 「ヨコハマ・ワールド・ウォーク」チェックポイントを設置しました。          5/5(土・祝)</li> <li>・ ワークショップ「親子でたのしむ展覧会」会場として活用しました。5/26(土)、12/9(日)</li> <li>・ 「YSFHで学ぶ高校生たちの天体写真展」に関連してプラネタリウムを開催しました。6/16(土)、17(日)(参加者合計 317 人)</li> <li>・ 奈良美智展でグランドギャラリー中央に作品を展示しました。無料スペースに、写真撮影可能な作品を設置できたことで、多くのお客様で賑わいました。</li> <li>・ 奈良美智展 10 万人達成記念セレモニーを行いました。          7/14(土)</li> <li>・ オルガンコンサート at 横浜美術館          観覧後のお客様や近隣の方々などに美術館の空間でオル</li> </ul>

<p>【8階施設の魅力を活かした活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 定期的な鑑賞会の実施 目標売上 190万円。</li> <li>■ 横浜美術館塾の教室として活用します。横浜美術館ならではのアート発信の場とします。 売上目標 500万円</li> </ul>	<p>ガン演奏を楽しんでいただく取組みを実施しました。 7/20(金)、8/17(金)、11/16(金)、2/22(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ はじまりは国芳展で和風お休み処を設置しました。</li> <li>・ 横浜美術館グランドギャラリー・コンサート～ファリヤ誕生日によせて～ 11/23(金・祝)</li> <li>・ 横浜みなとみらいホールとの専門館連携で、「芸術監督：諏訪内晶子 国際音楽祭 NIPPON」を共催し、音楽祭の一部のコンサートを開催しました。2/16(土)2回公演(参加者合計 480人)</li> <li>・ 急な坂スタジオとの共同主催でダンスパフォーマンス「岩渕真太 in 横浜美術館」を開催しました。2/17(日)、18(月) 計3回(観覧者 240人)</li> <li>・ 企画展開会式会場として活用しました。</li> <li>・ 展覧会特別鑑賞会のレセプション会場として活用しました。</li> </ul> <p>【アートギャラリー1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 横浜美術館塾「横浜美術館研修」の実習会場として活用しました。7/16(月・祝)～28(土)</li> <li>■ 衆議院選挙みなとみらい地区投票所として活用しました。12/16(日)</li> </ul> <p>【アートギャラリー2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ グランドギャラリーに隣接するメリットを活かし、有効に活用しました。</li> <li>・ 展覧会記者会見会場として活用しました。</li> <li>・ 横浜美術館コレクション・フレンズのギャラリートーク会場として活用しました。</li> <li>・ 奈良美智展会期中はベビーカー置き場として活用し、混雑緩和と市民サービス向上に努めました。</li> <li>・ 鑑賞パートナー(ボランティア)研修、ミーティング会場として活用しました。</li> <li>・ 「ロバート・キャパ/ゲルダ・タロー二人の写真家」鑑賞ワークショップの会場として活用しました。2/9(土)</li> <li>・ コレクション展レクチャーの会場として活用しました。8/25(金)、11/24(金)</li> </ul> <p>【8階施設】</p> <p>34 街区の工事が遅延して騒音の進入があるため、収入を目的とした施設の利用が困難となり今期は実施できなくなりましたが、可能な範囲で有効な活用を行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 半分をスクール形式、半分をワークショップ形式にレイアウトしておくことで設営労力を省き、様々な講座やレクチャーに活用しました。</li> <li>・ 横浜美術館塾「横浜美術館研修」7/16(月・祝)～28(土)</li> <li>・ 顧客サービス員を対象とした企画展事前レクチャー 奈良美智展 6/16(土)</li> <li>■ 眺望のよいレセプションルームとして活用しました。</li> <li>・ メディア懇談会 9/4(火)、3/5(火)</li> <li>・ コレクション・フレンズレクチャー&amp;交流会 9/8(土)、3/9(土)</li> <li>・ 金の卵たちのサロン・コンサート 11/24(土)</li> <li>・ 同 ワークショップ 11/18(日)</li> </ul>
---	--

<p><b>【円形フォーラムの積極活用】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■円形フォーラム予約状況を職員全員がオンラインで共有し効率的な活用に努めます。</li> <li>■グランドギャラリーからのアクセスの良さを活かし、企画展開会式や連携事業で活用します。</li> <li>■営業活動等で今後さらに使いやすい空間となるよう、備品のリニューアルに取り組みます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財団職員採用試験 11/14(水)</li> </ul> <p><b>【円形フォーラム】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■予約状況をオンラインで共有し管理しました。</li> <li>■企画展と連携した活用</li> <li>・開会式ドリンクサービス会場 マックス・エルンスト展 4/7(土) 奈良美智展 7/13(金) はじまりは国芳展 11/3(祝・土) ロバート・キャパ/ゲルダ・タロー二人の写真家 1/26(土)</li> <li>・マックス・エルンスト展実行委員会会場 5/8(火)</li> <li>・奈良美智展トーク・シリーズ会場 7/28(土)、8/11(土)、8/18(土)</li> <li>・団体事前レクチャー会場 7/25(水)、27(金)、31(火)、8/3(金)、9/1(土)、3(月)、4(火)</li> <li>■研修</li> <li>・鑑賞パートナー研修・反省会 2/3(日)・2/24(日)</li> <li>・コンプライアンス研修 2/20(水)</li> <li>■外部との連携による活用</li> <li>・横浜美術館協力会総会等 4/21(土)、5/28(月)、9/4(火)、1/28(月)</li> <li>・国際交流基金アジアキュレーターレクチャー 8/24(金)</li> <li>・ダンス・ダンス・ダンス関連事業 8/20(月)</li> <li>・西区キャンドルアート 12/22(土)</li> <li>■横浜市が主催する協議会等での活用</li> <li>・政策経営協議会 4/24(火)、6/1(金)、9/19(水)</li> <li>・指定管理者選定評価委員会 7/2(月)、9/25(火)</li> <li>・収集委員会 1/9(水)</li> <li>■その他</li> <li>・横浜トリエンナーレ 2014 記者会見 12/18(火)</li> <li>・メディア懇談会 9/4(火)、3/5(火)</li> <li>・経営アドバイザー会議 9/18(火)、3/22(金)</li> <li>・レクチャーホール抽選会 毎月1日</li> <li>・財団研修会場 4/27(金)、6/22(金)、7/6(金)、7/20(金)、3/12(火)</li> <li>・財団理事会・評議員会 6/13(水)、27(水)、9/26(水)、12/19(水)、3/13(水)、3/27(水)</li> <li>・「エルンスト」展 FMヨコハマとのタイアップ企画 DJと行くギャラリーツアー イベント会場 5/19(土)</li> </ul>
---	--

(2) 広報・PR 戦略について

1) 様々な手法による広報の取り組み

<ul style="list-style-type: none"> <li>●美術館の基本的な情報および開催する主要な企画についての情報について多言語で情報提供を行います。</li> <li>●美術館の事業に親しみをもってもらえるよう、事業の進行状況等をニュース配信していきます。</li> <li>●メールマガジンを定期的に配信し事業実施についての情報提供を効果的に行ないます。</li> <li>●各アンケート調査の結果を参考に効果的な広報につなげます。</li> <li>●横浜市の文化観光政策を支援する広報活動を行います。</li> <li>●横浜美術館協力会と横浜美術館コレクション・フレンズとの相互広報を行ないます。</li> </ul>
--

達成指標	事業報告(振り返り)
<p>■ ホームページをより見やすいものに改善します。デザインを改善し、またできるだけ多言語化し、できるだけ多くの市民から支持されるホームページに改善していくことを目指します。</p> <p>■ 近隣マンションや近隣企業、病院など、少なくとも5施設以上との広報連携をします。</p> <p>■ メールマガジンは月2回の定期配信をします。</p> <p>■ メールマガジン登録者数10%拡大を目指し、4,400人にします。</p> <p>■ データ分析に必要な年間2,000人分の来館者アンケートの収集を目指します。</p> <p>■ 国内各地、アジア圏からの来場者を誘致するために、関係所管の協力を得て、国内外の各地に出向き、広報営業活動をおこないます。</p> <p>■ 展覧会への観客誘致を後押しするため、横浜美術館全体の広報活動や広報イベントをおこないます。</p> <p>■ 横浜美術館協力会と横浜美術館コレクション・フレンズとの相互広報により、双方の会員増につなげます。</p>	<p>■ お客様の意見を反映するため、上半期にホームページをマイナーチェンジしました。また下半期には来館案内・展覧会概要などを中心に、これまでの英文のほか中国語・韓国語の情報欄を設けるマイナーチェンジを行いました。</p> <p>■ 近隣マンションや商業施設、文化施設など5施設以上にチラシやポスターを配架して広報拡大に取り組みました。</p> <p>■ メールマガジン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月に2回の定期配信とともに、必要に応じて臨時配信も行いました。</li> <li>・キャンペーンを実施して、登録者を4,800人に増加させ目標を達成しました。</li> </ul> <p>■ 目標どおり来場者アンケートを収集しました。 収集件数 2,395件</p> <p>■ 横浜市文化観光局観光振興課や航空会社への広報営業活動を行い、機内誌で横浜観光案内とタイアップした奈良美智展紹介ページを獲得し、国内全体の広報拡大における成果を得ました。</p> <p>■ 奈良美智展にあわせ、展覧会出品作品を掲載した横浜市営バスでのパートラッピング広告を実施しました。期間 7/1(日)～9/26(水) 実施台数 7台</p> <p>■ 奈良美智展で展覧会出品作品をモチーフにしたキッチン・トレーラーを屋外に設置しソーセージとビールを販売し賑わいを創出しました。7/14(土)～8/31(金)の毎週土日営業。この取り組みは「2012 グランモール公園夏のオープンカフェ(みなとみらい21地区公共空間活用実験)」に参加しています。</p> <p>■ はじまりは国芳展で横浜の老舗とタイアップして特別メニューを提供しました。日本料理「岩亀」 御菓子司「清月」</p> <p>■ 「ロバート・キャパ/ゲルダ・タロー 二人の写真家」展で、パシフィコ横浜で 1/31～2/3 に開催されるカメラと写真映像の見本市「CP+(シーピープラス)」と以下のとおりタイアップしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見本市の会場内にキャパ展の「サテライト・ブース」を設営して、キャパ展の広報活動を行いました。</li> <li>・両会場間のシャトルバスを無料運行して来場者の拡大をはかりました。</li> <li>・観覧料を割引して来場者の拡大をはかりました。</li> <li>・特別鑑賞会をかねて、見本市の開幕パーティーを横浜美術館で開催しました。</li> </ul> <p>■ 近隣企業間の交流団体と連携して、近隣からの広報拡大を目的とした鑑賞会を実施しました。</p> <p>■ ホームページでは横浜美術館協力会と横浜美術館コレクション・フレンズ双方の特色を紹介をして、会員増に取り組みました。</p> <p>■ 教育普及グループの 2013 年度パンフレット作成にあた</p>

	り、子ども、市民、鑑賞のデザイン共通化させ、館の教育普及総体の視覚的PRに努めました。
--	---

2) 情報提供

<ul style="list-style-type: none"> <li>● ホームページのバイリンガル化を継続するとともに外国語対応の拡大を進めます。</li> <li>● メールマガジンを活用しタイムリーにリピーター層に情報を提供します。</li> <li>● メディアからの発信を促し、幅広い層に分かりやすい情報提供を推進します。</li> <li>● 各企画展を中心にプレスリリース、記者発表を積極的に行ない、事業の事前周知および成果を周知していきます。</li> </ul>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ホームページで各企画展、コレクション展を分かりやすく紹介します。英語による表記を取り入れ外国人へも美術館の情報を分かりやすく提供します。</li> <li>■ メールマガジンを活用し情報を配信します。 2回配信 登録者数10%増(4,400人)</li> <li>■ 年1回プレス懇談会を開催し、新聞、雑誌、ウェブ媒体とのコミュニケーションを活発化し双方にメリットのある関係を築きます。</li> <li>■ 企画展その他、新規事業開催のたびに記者発表を行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 複数言語でのホームページ作りに取り組みました。館長挨拶の英語表記を追加しました。</li> <li>■ メールマガジン <ul style="list-style-type: none"> <li>・月に2回の定期配信とともに、必要に応じて臨時配信も行いました。</li> <li>・キャンペーンを実施して、登録者を4,800人に増加させ目標を達成しました。</li> </ul> </li> <li>■ 市内の新聞各社を招いて、館長や学芸員、広報担当職員たちとの懇談会を2回開催しました。9/4(火)(参加者11人)、3/5(火)(参加者20人)</li> <li>■ 展覧会をはじめ、ほぼ全ての事業で記者発表を行いました。</li> <li>■ 5/2(水)より Twitter (@yokobi_tweet) を試験的に開始しました。3/22(金)現在 7,728 フォロワーを達成しています。</li> <li>■ ホームページに「ヨコビ学芸員コラム」として国内外の現代美術の動向や国際展に関するレポートを定期的に掲載しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 dOCUMENTA(13) 7/25(水)掲載</li> <li>第2回 新潟レポート 8/25(土)掲載</li> <li>第3回 北海道調査レポート 9/25(日)掲載</li> <li>第4回 關渡/台北ビエンナーレを観て 10/25(木)掲載</li> <li>第5回 釜山ビエンナーレレポート 11/26(月)掲載</li> <li>第6回 ベップアートプロジェクト・レポート 12/26(水)掲載</li> <li>第7回 APT7(アジア・パシフィック・トリエンナーレ)レポート 3/2(土)掲載</li> <li>第8回 キヤパ/タロー展 準備&amp;ニューヨーク出張レポート 3/16(土)</li> </ul> </li> </ul>

(2) 顧客サービスについて

1) 新規顧客の開拓

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 共同事業体を構成する三菱地所ビルマネジメントが管理するランドマークプラザをはじめとした近隣商業施設とタイアップし、広報を展開します。</li> </ul>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 企画展ごとに周辺商業施設と連携し、誘客方策を展開し観客誘致を図るとともに、街の活性化にも貢献します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ゴールデンウィーク期間中、近隣ホテルとタイアップして横浜市の観光振興を促進しました。この期間、国内外から横浜を訪れる旅行者に横浜美術館の秀逸なコレクションや展覧会</li> </ul>

	<p>を紹介し、横浜の魅力を広く周知することを目的として、近隣ホテルの宿泊者を展覧会に招待しました。実績 500 人 タイアップしたホテル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨコハマグランドインターコンチネンタル ホテル</li> <li>・パン パシフィック 横浜ベイホテル東急</li> <li>・横浜ロイヤルパークホテル</li> <li>・ホテルニューグランド</li> </ul> <p>■6/2(土)開港記念日に横浜の開港を市民とともに祝うため、マックス・エルンスト展を無料としました。同展の 1 日平均入場者数 387 人のところ、1,892 人が来館し地域の賑わい創出に貢献しました。</p> <p>■11/3(祝・土)は開館記念日と企画展 100 本目を記念し、無料開館としました。同展の 1 日平均入場者数 655 人のところ、2,258 人が来館し地域の賑わい創出に貢献しました。</p> <p>■はじまりは国芳展に和装でご来館の方を割引サービスしました。実績 193 人</p> <p>■はじまりは国芳展で太田記念美術館、鏑木清方記念美術館と相互割引を実施しました。実績 711 人</p> <p>■ロバート・キャバ/ゲルダ・タロー二人の写真家展で CP+2013 と連携し、同イベント入場パスで 400 円割引を実施しました。実績 2,559 人</p>
--	---

2)リピーターの獲得

<ul style="list-style-type: none"> <li>●横浜美術館独自の支援プログラムを運営します。</li> <li>●リピーター割引を継続します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・観覧済みの企画展有料チケットの半券提示で団体割引とします。</li> </ul> </li> <li>●希望する団体入館者に対し、担当学芸員の事前ミニレクチャーを行います。</li> <li>●約7,000人の近隣マンション住民への情報提供、特典の提供等を行います。</li> <li>●横浜美術館協力会主催の講演会に協力します。</li> </ul>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> <li>■「横浜美術館コレクション・フレンズ」を運営します。150人の参加者を目指します。</li> <li>■継続的な団体客誘致の取り組みを行います。</li> <li>■近隣マンション自治会と連携し、居住者のリピーターを作ります。</li> <li>■横浜美術館協力会主催の講演会講師を学芸員が務め、企画展やコレクションに対する理解を促進します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■横浜美術館コレクション・フレンズの参加者は 176 人で目標を達成しました。</li> <li>■希望する団体入館者への事前レクチャーを実施しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>マックス・エルンスト展 3 団体 計 179 人</li> <li>奈良美智展 3 団体 計 98 人</li> <li>はじまりは国芳展 2 団体 計 48 人</li> </ul> </li> </ul>

3)チケット販売

<ul style="list-style-type: none"> <li>●近隣プレイガイド、コンビニエンスストアでのチケット販売を継続します。</li> <li>●すべての企画展で前売券を販売します。</li> </ul>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> <li>■美術館窓口以外での販路拡大により、チケット購入の利</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■コンビニエンスストアでのチケット販売を継続して行う</li> </ul>



<p>便性を確保するとともに有料入場者数増を目指します。</p> <p>■前売券は企画展開幕2ヶ月前から販売します。</p>	<p>とともに、奈良美智展では観覧券をラムフロム及び小山登美夫ギャラリーに販売委託して販路を拡大しました。</p> <p>■奈良美智展では積極的に事前購入を案内することでスムーズな入館を促し、利便性を確保できました。</p> <p>■前売券の販売</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マックス・エルンスト展 (4/7(土)～) 2/4(土)販売開始</li> <li>・奈良美智展 (7/14(土)～) 4/25(水)販売開始</li> <li>・はじまりは国芳展 (11/3(土・祝)～) 8/10(金)販売開始</li> <li>・ロバート・キャパ/ゲルダ・タロー 二人の写真家 (1/26 (土)～) 11/3 (土・祝) 販売開始</li> </ul> <p>ペア券の販売も行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Welcome to the Jungle 熱々！東南アジアの現代美術 (4/13(土)～) 1/31(木)販売開始</li> </ul> <p>ペア券、ドリンクセット券の販売も行いました。</p>
--	---

(3) 館内サービスについて

1) 魅力あるミュージアムショップの運営

<ul style="list-style-type: none"> <li>●ミュージアムショップを運営します。</li> <li>●お客様目線で、ニーズに応える商品を取り扱い、展覧会へお客様を誘導する工夫をします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会関連商品コーナーの設置展覧会ごとに関連する商品のコーナーを設けます。</li> <li>・横浜トリエンナーレ関連商品 引き続き関連商品や現代作家の商品を取り揃えます。</li> <li>・企画展前売券をオンラインで販売します。</li> <li>・プライスカードなどのデザインを工夫します</li> <li>・オンラインショップの商品充実を図り、露出方法にも工夫をして売上を伸ばします。</li> <li>・近隣商業施設とタイアップし、展覧会関連商品を美術館の外でも販売します。</li> <li>・他館のオリジナルグッズを相互販売します。</li> <li>・隣接するカフェや、他施設と連携したチケット販売を行います。</li> </ul> </li> </ul>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> <li>■年間売上9,400万円を目指します。</li> <li>■グランモール公園側の正面入口横という外部からのアクセスに優れた立地を活かし、美術館の魅力アップと収益性の両方を目指します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・展覧会関連商品コーナーを設置し、展覧会を盛り上げるとともに、売上げ向上を目指します。</li> <li>・横浜トリエンナーレ関連商品を扱うことにより、お客様の興味を次回展につなげます。</li> <li>・前売券ならびに商品をオンライン、近隣商業施設などで広く取り扱うことを通じて、顧客の利便性と売上の向上を目指します。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■年間売上 313,725 千円 奈良美智展での売上により目標を大きく上回りました。今回の取り組みにより商品製作及び販売に関するノウハウが蓄積できました。</li> <li>■奈良美智展でポストカード等の定番商品に加え、チョコセット、のど飴などユニークなオリジナルグッズ開発に取り組み展覧会を盛り上げました。</li> <li>■引き続き横浜トリエンナーレ関連商品を取り扱いました。取扱商品：6種</li> <li>■昨年度から始めたコンビニでのチケット販売が好調でした。 コンビニでの年間売上率 3.57%</li> <li>■商品・図録のオンライン販売は特に遠方からのお客様からのニーズに対応する手段として有効でした。</li> <li>■近隣商業施設と連携し図録を TSUTAYA とクマザワ書店でも販売しました。両店の工夫されたディスプレイは商品PR及び売上向上の一助となるとともに、お客様の利便性向上にもつながりました。</li> </ul>

2)美術館にある特徴を活かしたカフェ、レストランの提供

<p><b>【カフェ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●委託先と定例ミーティングを行います。</li> <li>●季節に応じたメニューを開発します。</li> <li>●企画展ごとに特色ある限定メニューを提供します。企画展の記者発表の際には限定メニューのPRを積極的に行います。</li> <li>●カフェと連携した事業展開を行い集客につなげます。</li> </ul> <p><b>【レストラン】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●横浜市が主催するレストランとの定例会に参加し美術館事業の情報提供を行います。</li> </ul>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<p><b>【カフェ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■毎月1回情報を共有し、美術館に相応しい飲食施設としての質とサービスを確保します。</li> <li>■展覧会と連携した特色ある限定メニューの提供や、居心地の良い空間演出など魅力的な運営を行います。</li> <li>■横浜美術館塾をはじめとする美術館事業をカフェスペースで展開し、売上げ向上に貢献するとともにお客様も楽しめる演出を行います。</li> </ul> <p><b>【レストラン】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■2ヶ月に1回美術館事業についてレストランと情報を共有し、お客様サービスを向上します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■毎月1回定例会を実施し情報共有を行っています。様々な連携事業について協議を行い、質とサービスの確保に努めました。</li> <li>■展覧会限定メニュー マックス・エルンスト展 ・バジリコヴルストのジャーマンサンド ・ブルーオレンジソーダ 奈良美智展 ・いろどり野菜カレー ・リンゴ★パフェ はじまりは国芳展 ・ぜんざいのアフガート ロバート・キャパ/ゲルダ・タロー 二人の写真家展 ・キャパとタローのハーフサンド ・ハニーキャパラテ Y S F Hで学ぶ高校生たちの天体写真展 ・プラネットワッフル ・ミルクウェイソーダ</li> <li>■季節の限定メニュー ・桜ワッフル (春) ・桜ティー (春)</li> <li>■コレクション・フレンズ連携事業 《カフェでもっとアートを》キャンペーン フレンズ・マグカップでドリンクを提供、抽選でコレクション展鑑賞券とカフェ利用券をプレゼントするキャンペーンを行い、コレクションに親しむ機会を提供しました。 《フレンズ・キャンベル・スーププレート》 週替わりで3種類のスープをフレンズマグで提供、注文ごとに発行する《フレンズ特典クーポン》3枚で「コレクション展鑑賞券」をプレゼントしました。</li> <li>■奈良美智展 展覧会出品作品をデザインしたトレイシート2種を作成し提供しました。シートを目当てにするお客様も多く顧客サービスの向上と賑わいの創出に貢献しました。また</li> </ul>

	<p>カフェスペースにも作品を展示し、企画展と統一されたコンセプトでサービスを提供しました。</p> <p>■はじまりは国芳展 辻屋台を設置し、市内店舗と連携した展覧会限定メニューを提供しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国芳御膳（「岩亀」提供）</li> <li>・国芳おでん（「岩亀」提供）</li> <li>・国芳おむすび（「岩亀」提供）</li> <li>・鶴見のよねまんじゅう（「清月」提供）</li> </ul> <p>■ロバート・キャパ/ゲルダ・タロー二人の写真家 ・キャパ・ブレンドコーヒー ・タロー・ブレンドティー ・カフェ内に Capa Café Lounge を設置。ソファでゆっくりと休憩できる空間を作りました。</p> <p>■学校連携事業 Y S F Hで学ぶ高校生たちの天体写真展 6/9(土)～6/24(日)</p> <p>■「クラシック・ヨコハマ 2012」協力事業を実施しました。 名曲カフェ小倉山～MMホールの名演奏の記録録音から ～ 11/19 (月)・20 (火)・21 (水)・26 (月)・27 (火)・28 (水)</p>
--	---

(5)利用者ニーズの把握と対応について

1)利用者ニーズの把握とその反映

<p>●企画展の入場者を対象としたアンケート用紙の配置方法の改善等を行ないます。</p> <p>●企画展を中心にモニターを募集し面談方式で、またはオンライン方式で意見を聴取します。</p>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<p>■有効なアンケート数を確保し、事業企画や広報に反映させます。</p> <p>■アンケートやモニターによる意見といった広聴情報を館の運営に反映するため、広聴反映委員会を展覧会終了ごとに開催し、運営改善を図ります。</p> <p>モニター募集数500人</p>	<p>■各企画展で有効数のアンケートを収集し、企画展終了後に報告会を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マックス・エルンスト展 アンケート収集件数 693 件、デブリーフィング(報告会)7/18(水)</li> <li>・奈良美智展 アンケート収集件数 609 件、デブリーフィング(報告会)10/15(月)</li> <li>・はじまりは国芳展 アンケート収集件数 276 件、デブリーフィング(報告会)2/12(火)</li> <li>・ロバート・キャパ/ゲルダ・タロー二人の写真家展 アンケート収集件数 817 件、デブリーフィング(報告会)2013年4月上旬に開催予定</li> </ul>

2)クレームの的確な対応と改善

<p>●館内でのクレームは顧客サービス員、顧客サービスディレクター、職員で丁寧に対応します。</p> <p>●アンケート、Eメールでのクレームには広聴担当が窓口となり、迅速に回答します</p> <p>●発生したクレームは、報告書として事実関係と対応を記録して職員で情報共有し、市のモニタリングで報告すると</p>
--

もに事後の改善に役立てます。	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> <li>■クレームに対して迅速・適切に対応します。</li> <li>■改善できる指摘に対しては迅速に対応し、クレームの減少を目指します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■発生したクレームは顧客サービス員の日報、職員の報告書で対応策を含めて情報共有し、必要な対応を行っています。</li> <li>■ホームページに寄せられた意見に迅速に対応しました。</li> </ul>

(4)組織体制について

1)専門性が十分に発揮できる組織と組織運営

<ul style="list-style-type: none"> <li>●第二期指定管理にむけた組織改編を行います。</li> <li>●必要な分野、専門性を有する学芸員・指導員・情報担当職員を適切に配置します。</li> <li>●隔週の定例会としてグループ長会議とチームリーダー連絡会を開催します。</li> <li>●上記会議での議事及び決定事項は職員で情報共有します。</li> <li>●共同事業体間の定例ミーティングを実施します。</li> <li>●財団のネットワークを活かした他施設及び、みなとみらい地区周辺施設との連携を図ります。</li> </ul>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> <li>■第二期の事業計画に先立ち、ミュージアムエデュケーションを総括する教育普及グループを新設します。</li> <li>■経営管理グループ内にビジターサービスチームを設立するための準備を行ない、第二期におけるスムーズな移行を目指します。</li> <li>■専門性を強化し魅力的な事業を企画実行するため、学芸員を増員します。</li> <li>■グループ長会議とチームリーダー連絡会を定例会として隔週で行い、情報共有と意見交換を行うことで、館運営の改善と意思決定プロセスを適切にマネジメントします。</li> <li>■三菱地所ビルマネジメントとの定例会を月1回、相鉄エージェンシーとの定例会をワークショップ実施案件ごとに開催し、情報共有と連絡調整を図ります。</li> <li>■財団他施設と連携したレクチャーつき鑑賞会を企画し観客誘致を図ります。</li> <li>■周辺商業施設と連携した相互割引や、近隣ホテルと連携した宿泊プラン、ホテル内レストランでの特別メニュー提供などを行います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■4月1日付で教育普及グループを新設し、教育プロジェクトチームを設置しました。専任の職員を配置し教育普及プログラムの強化を進めています。</li> <li>■広報・渉外チームが中心となり、第二期に向けたビジターサービス事業について、有効な事例となる他施設の視察などを行い検討を始めました。第1回経営アドバザー会議においても本件を議題としアドバイザーから意見をいただいています。</li> <li>■学芸員2名及び展覧会コーディネーター1名の計3名を4月1日付で増員しました。</li> <li>■グループ長会議とチームリーダー連絡会を隔週金曜日に定例会として開催しています。</li> <li>■三菱地所ビルマネジメント定例会を月1回開催しました。相鉄エージェンシーとの連絡調整は案件ごとに行っています。</li> <li>■横浜みなとみらいホール「みらいすとクラブ」及び横浜能楽堂「かもん会」を対象としたレクチャー付鑑賞会を奈良美智展で実施しました。9/3(月)(参加者5人)</li> <li>■企画展とタイアップして、商業施設の相互割引、宿泊プラン、近隣レストランでの特別メニュー開発などを行いました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・マックス・エルンスト展</li> <li>アルテリベ横浜本店及びレオナーネマルチアーノと連携し特別メニューを提供しました。</li> <li>・奈良美智展</li> <li>近隣商業施設と連携し、施設内飲食店で美術館来館者に割引などのサービスを提供しました。</li> <li>・クイーンズスクエア横浜[アット!]</li> <li>・ランドマークプラザ</li> <li>・コレットマーレ</li> </ul> </li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじまりは国芳展</li> <li>・ランドマークプラザ</li> <li>・コレットマーレ</li> <li>・みなとみらいグランドセントラルテラス</li> <li>・横浜ロイヤルパークホテル</li> <li>・パン パシフィック 横浜ベイホテル東急</li> <li>・ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル</li> <li>・ロバート・キャパ/ゲルダ・タロー二人の写真家展</li> <li>・ランドマークプラザ</li> <li>・コレットマーレ</li> <li>・MM テラス</li> </ul>
--	---

**■施設の管理に関する振り返り■**

(1)安全、安心、安定、快適な施設の維持管理について

- 職員、設備スタッフ、警備員、顧客サービス員、清掃スタッフのすべてが、現場の状況について気を配り、問題が発生した場合は迅速に対応します。
- 発生した問題と対処までの経過は報告書を作成し館内で情報共有します。
- バリアフリー研修を行います。
- 収蔵庫、展示室の温湿度管理の基準を保ち、必要に応じて現場を確認しながら作品保全に努めます。
- 展覧会場に顧客サービス員を適切に配置します。
- 展示作品の安全な管理のため、会期前に顧客サービス員、警備員、清掃員を含む施設管理担当スタッフが担当学芸員から展示会場全体の取り扱いについて説明を受け、安全を確認します。
- 各種工事が美術館事業の遂行に影響しないよう日程調整等を行います。

達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> <li>■共同事業体の専門性を活かした施設運営により、事故を未然に防ぎ、安全な施設維持管理を行います。</li> <li>■バリアフリー研修を年1 回財団他施設職員に対しても受講可能とし、スタッフのスキル向上を計ります。</li> <li>■展覧会ごとのスタッフによる事前安全確認をポスト確認の中でおこない、来館者の安全と展示作品の保全を確実に進めます。 企画展 3回 コレクション展 3回</li> <li>■工事施工について横浜市及び施工業者と事前打合せを行い、館内の情報共有と日程調整を確実に進めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■施設の不具合について常に情報を共有し、共同事業体の専門性を活かした最善の対応を行っています。</li> <li>■バリアフリー研修を教育プロジェクトチームと連携して実施しました。 11/18(日)、2/3(日) (参加者合計 26 人)</li> <li>■展覧会ごとのポスト確認 マックス・エルンスト展 4/6(金) コレクション展第1期 4/6(金) 奈良美智展 7/11(水) コレクション展第2期 7/11(水) はじまりは国芳展 11/2(金) コレクション展第3期 11/2(金) ロバート・キャパ/ゲルダ・タロー 二人の写真家展 1/25(金)</li> <li>■6 月から衛生委員会を立ち上げ、職員の健康管理と職場環境の改善への取り組みを開始しました。委員会は月 1 回開催しています。</li> <li>■横浜市工事の日程調整を着実に進めました。 ・展示室フローリング化 ・除湿機導入 ・24 時間系統空調機配線工事 ・第5 展示室照明更新 ・屋上防水工事</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空調機更新工事</li> <li>・けやき通りベンチ設置工事</li> <li>・子どものアトリエ放送設備更新工事</li> <li>・正面石床張替工事</li> <li>・正面自動扉修繕工事</li> </ul> <p>■共同事業体から財団単独管理への移行に伴う各種委託業務の業者選定及び契約を完了しました。</p>
--	---

(2)適切な環境維持管理について

<ul style="list-style-type: none"> <li>●三菱地所ビルマネジメントのみなとみらい21地区エリアマネージャーが横浜美術館も統括し、スケールメリットを活かした運営を行います。</li> <li>●施設管理部門の複数の業務を指定管理期間にわたって一括管理することで事務の軽減をはかり、業務の効率化につなげます。</li> </ul>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<p>■共同事業体の専門性を活かして適切に施設を維持管理します。</p>	<p>■三菱地所ビルマネジメントとの定例会を月1回行い、施設管理・運営面での情報共有と改善策の協議を行いました。</p> <p>■三菱地所ビルマネジメントが統括する設備、清掃、顧客サービス、警備、レクチャーホール管理からの日報を館内で共有し、問題点に適切に対応しました。</p>

(3)環境への負荷の軽減について

<ul style="list-style-type: none"> <li>●ゴミ置き場の分別表示をわかりやすくし、正しい分別がなされるように工夫します。</li> <li>●不適切な分別が見られる場合は迅速に注意喚起を促します。</li> </ul>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<p>■ごみの分別が正しく行われるよう来館者やスタッフの啓発を行い、意識を向上させます。</p>	<p>■表示や配置を工夫し、分別しやすいようゴミ箱を設置しました。</p> <p>■今年度からゴミ収集方法を集塵機からゴミ収集車による収集に切り替えました。短時間で効率よく収集できるようゴミ置き場の分別を清掃スタッフと協力して改善しました。</p>

(4)施設予防保全への取り組みについて

<ul style="list-style-type: none"> <li>●三菱地所ビルマネジメントが統括する設備、顧客サービス、警備、清掃、レクチャーホールからの日報を館内で情報共有します。</li> <li>●発見された不具合については改善策を策定します。額により必要に応じて横浜市に改善案を提出します。</li> <li>●共同事業体で負担すべき修繕は優先順位を考慮して実施します。</li> <li>●施設管理スタッフの定例会を開催します。</li> <li>●業務の基準に従って保守点検を行います。</li> <li>●修繕の必要な項目をリストアップし、優先順位をつけ横浜市に報告、提案します。</li> <li>●横浜市の工事については、仕様書の作成やスケジュール管理に協力します</li> </ul>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<p>■三菱地所ビルマネジメントを中心とした共同事業体のスタッフ体制で統括マネジメントを行い、施設の不具合の早期発見と改善を行い、不具合に対しては最善の対応策を館内で検討・実施します。</p>	<p>■設備担当からの日報を共有し迅速な対応を行いました。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>■月1回の施設管理スタッフの定例会から出た現場の声を運営に活かします。</li> <li>■業務の基準に基づき適切に管理します。</li> <li>■横浜市工事のより効率的な作業の進行。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■施設管理スタッフ定例会を計画どおり行いました。月1回</li> <li>■業務の基準どおり管理を行いました。</li> <li>■複数が同時進行する横浜市工事を滞りなく進めるため、事前の館内調整と施工業者との打ち合わせを綿密に行い、スケジュール案を作成しました。安全を第一とした進行管理に努めた結果、無事故で工事を完了しています。</li> <li>■年末年始の休館日を利用し事務室 0A フロア化及びレイアウト変更を行い、安全性の向上と業務の効率化を図りました。工事期間 12/28（金）～1/3（木）</li> </ul>
---	---

**■収支目標に関する振り返り■**

(1) コスト削減への努力

<ul style="list-style-type: none"> <li>●施設管理部分を三菱地所ビルマネジメントが指定管理期間を通して統括管理することで、共同事業体の中にノウハウを蓄積し業務の効率化をはかります。</li> <li>●展示室や情報センターの運営日を効率よく設定し、ランニングコストの削減をはかります。</li> </ul>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> <li>■施設の効率的な運営によりコスト削減をはかります。</li> <li>・企画展とコレクション展の会期を統一します。</li> <li>・美術情報センターの蔵書点検を展覧会休室期間に設定します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■企画展とコレクション展の会期を統一することで一定の展示休室期間を設け、修繕や保守点検を効率的に実施しコスト削減を図りました。美術情報センターの蔵書点検は展示替え休室中の10/15(月)～25(木)で行いました。</li> <li>■7月から9月の電力消費量ピーク時の設備運転を工夫し、最大限の節電に努めました。結果として平成22年度比で各月とも20%を超える節電を達成し、コスト削減につながりました。</li> </ul>

(2) 収入向上への努力

<ul style="list-style-type: none"> <li>●集客の見込める展覧会を企画します。</li> <li>●ミュージアムショップで展覧会関連グッズを展開します。</li> </ul>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> <li>■グッズ販売を収入向上の一助とします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■集客を見込める展覧会として「奈良美智展」を開催しました。入場者数166,410人と見込みの55,000人を大きく上回り、収入向上を達成できました。</li> <li>■同展ではオリジナルグッズを多数展開しました。入場者数に比例してグッズ販売も伸び、売上向上につながりました。</li> <li>■ロバート・キャパ/ゲルダ・タロー二人の写真家展では、セット図録、キャパ単品図録、ゲルダ単品図録の3種を販売することでお客様ニーズに応え、売上向上につながりました。</li> <li>■ポストカード、マグネット等オリジナルグッズを新規作成し、ショップの魅力アップにつなげました。</li> </ul>

(3) 外部資金導入、広告等獲得の拡大

<ul style="list-style-type: none"> <li>●Heart to Art 事業、フレンズ事業のファンドレイジングと、広報展開を目的とした商業撮影（施設利用）協力、美術鑑賞会、美術館塾の経営を実施します。</li> </ul>	
達成指標	事業報告(振り返り)

■売上目標 18,600,000 円	■売上実績 20,550,000 円で、目標を達成しました。
--------------------	--------------------------------

■その他の計画に関する振り返り■

(1)危機管理対策の充実について

<ul style="list-style-type: none"> <li>●消防訓練を実施します。</li> <li>●消防計画を作成し運用します。</li> <li>●事業実施にあたり概要を所轄消防署に届出ます。特例認定を受けているグランドギャラリー大屋根下部分でのイベントは事前に所轄消防署と協議を行い、適切に運営を行います。</li> <li>●危機管理マニュアルを必要に応じて改定し、最新のものを職員に周知するとともに、事務室内に常備します。</li> <li>●毎日の現金管理を確実に行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全な現金管理を行うため、金庫内の現金を毎日数え、現金有高表を作成します。</li> <li>・毎日の売上げ集計は複数名で確認して、確実に行います。</li> </ul> </li> </ul>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> <li>■消防・防災訓練を年2回実施し、職員の防災意識を高めるとともに、危機管理の実践的対応能力を向上させます。</li> <li>■消防法を遵守した施設管理を行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展及びイベント開催ごとに消防署に届出を行います。</li> </ul> </li> <li>■職員が常に最新の危機管理マニュアルを参照できる状態を維持し、内容を共有します。</li> <li>■現金事故を未然に防ぎます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■防火防災訓練 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 9/14(金)</li> <li>・車椅子のお客様や視覚障がいのお客様を想定した避難訓練を行いました。</li> <li>第2回 1/30(水)</li> <li>・文化財保護デーのある1月中に行いました。</li> <li>・聴覚障がいのお客様を想定しコミュニケーションボードを使用した誘導訓練も取り入れました。</li> </ul> </li> <li>■企画展及びイベントごとに消防署に届出を行いました。</li> <li>■危機管理マニュアルは最新のものを共有しています。</li> <li>■金庫内の現金は毎日数え、現金有高表を作成しています。過不足がある場合は原因を明らかにして対処しています。金庫の鍵はカード式のキーボックスで管理し、各人の使用記録を常時チェックできるようにしています。</li> </ul>

(2)自己評価、PDCA サイクルの導入と確実な運用について

<ul style="list-style-type: none"> <li>●企画展終了時に入館者数や収支、広報実績等をまとめ、評価及び反省点を館内で協議し、今後の計画に反映します。</li> <li>●アトリエや横浜美術館塾などの講座については、定員達成度やお客様の声を定期的にとりまとめ、館内で協議します。</li> <li>●個別事業評価における事業ごとの自己評価を行いません。</li> <li>●年に2回事業全体を振り返り指定管理者制度に基づく自己評価を行います。中間振り返りを10月に、年間振り返りを翌年度4月に行います。</li> <li>●3名の経営アドバイザーによる経営アドバイザー会議を開催します。アドバイザーは経営分野、マーケティング分野、学芸分野からそれぞれ1名ずつとします。</li> </ul>	
達成指標	事業報告(振り返り)
<ul style="list-style-type: none"> <li>■各事業評価の結果を、次回の計画立案に活かします。</li> <li>■外部からの多角的な意見を運営改善に役立てます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■財団の個別事業評価システムにより自己評価を行いました。</li> <li>■上半期振り返りを10月に、期末振り返りを3月に行いました。</li> <li>■経営アドバイザー会議を年2回開催しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 9/18(火)</li> <li>テーマ:ビジターサービスについて</li> <li>第2期指定管理期間に新たに取り組むビジターサービス事</li> </ul> </li> </ul>



	<p>業についてご意見をいただきました。</p> <p>第2回 3/22(金)</p> <p>テーマ:横浜美術館経営アドバイザー会議総括</p> <p>5年間を振り返り総括をいただきました。</p>
--	---

(3) 情報公開、説明責任の的確な実施について

- 個人情報保護研修を年1回実施します。
- 事業報告・収支決算、事業計画・収支予算をホームページに公開します。
- 新収蔵作品目録を発行します。

達成指標	事業報告(振り返り)
<p>■ 職員全員を対象にした研修により、確実な個人情報保護に必要な知識と意識を全職員が備えます。</p> <p>■ 評議員会承認後1ヶ月以内のホームページ公開を目標とします。</p> <p>■ 新収蔵作品目録2011を作成し、市民に公開します。</p>	<p>■ 新採用及び異動者を対象としたコンプライアンス研修を実施しました。4/27(金)、2/20(水)(参加者計10人)</p> <p>■ 起案文書作成の基本を習得させるため、全職員を対象とした文書研修を実施しました。 6/22(金)、7/6(金)、7/20(金)(参加者合計77人)</p> <p>■ ホームページへの公開 評議員会(6/27(水)開催)後速やかに公開しました。 ・平成23年度事業報告書及び収支決算書 7/1(金)公開</p> <p>■ 新収蔵作品目録2011を作成しました。</p>

## 5 決算

平成 24 年度 横浜美術館決算

収入

(単位:円)

項目	決算額	備考
指定管理料	637,500,000	
利用料金	68,288,847	コレクション展、レクチャーホール、特別利用料(図版等)、駐車場
事業収入	238,624,730	企画展(共催事業含)、アトリエ等
助成金等	15,771,895	企画展、コレクション・フレンズ、観客誘致協賛金、助成金等
その他収入	321,818,309	ショップ、カフェ等
合計	1,282,003,781	

支出

(単位:円)

項目	決算額	備考
人件費	322,406,515	公益会計分
事務費	177,333,452	公益消費税、券売システム、経理・金融システム利用費
管理費	116,980,134	施設管理経費等
事業費	292,097,746	企画展、コレクション展、アトリエ、観客誘致、学芸業務、図書事業等
負担金	700,000	年会費等負担金
その他の支出	230,081,328	ショップ、カフェ、駐車場等経費(人件費、消費税等含)
合計	1,139,599,175	

収支差額	142,404,606	
------	-------------	--

## 6 人員配置

項目	人数	備考
館長	1	
主席学芸員	1	
グループ長及び担当グループ長	5	経営管理グループ長1、学芸グループ長1、教育普及グループ長1、学芸担当グループ長1、広報・渉外担当グループ長1
チームリーダー及び担当リーダー	12	経営管理チームリーダー1、広報・渉外チームリーダー1、主任学芸員4、展覧会コーディネーター1、主任ワークショップコーディネーター4 経理担当リーダー1、
職員	23	経営管理グループ9、学芸グループ10、教育普及グループ4
計	42	学芸員14、展覧会コーディネーター1、ワークショップコーディネーター8、司書3、事務職16

## 7 平成 24 年度事業一覧

事業名	開催日	主催、共催など	入場料 受講料	入場 者数
マックス・エルンスト フィギュア x スケープ	4/7～6/24	主催:横浜美術館、「マックス・エルンストーフィギュア x スケープ」展実行委員会 助成:財団法人地域創造 後援:横浜市、ドイツ大使館、フランス大使館、米国大使館 協力:日本航空、みなとみらい線、横浜ケーブルビジョン、FMヨコハマ、首都高速道路株式会社	一般 1200 大高生 800 中学生 400	26,697
奈良美智:君や僕にちょっと似ている	7/14～9/23	主催:横浜美術館 協力:みなとみらい線、横浜ケーブルビジョン、FMヨコハマ、首都高速道路株式会社 協賛:資生堂 後援:横浜市	一般 1100 大高生 700 中学生 400	166,410
はじめは国芳一江戸スピリットのゆくえ	11/3～1/14	主催:横浜美術館、日本経済新聞社 後援:横浜市、NHK横浜放送局 特別協力:鎌倉市鏑木清方記念美術館、ギャラリー紅屋、東京国立近代美術館 協力:みなとみらい線、横浜ケーブルビジョン、FMヨコハマ、首都高速道路株式会社	一般 1200 大高生 800 中学生 400	37,975
ロバート・キャパ/ゲルダ・タロー二人の写真家	1/26～3/24	主催:横浜美術館、朝日新聞社 企画監修(ゲルダ・タロー):ICP 後援:横浜市、NHK横浜放送局 特別協力:マグナム・フォト東京支社、CP+2013 協力:日本航空、みなとみらい線、横浜ケーブルビジョン、FMヨコハマ、首都高速道路株式会社	一般 1100 大高生 700 中学生 400	56,036
横浜美術館コレクション展 I II III	4/7～6/24 7/14～9/23 11/3～3/24	主催:横浜美術館	一般 500 大高生 300 中学生 100	298,679
梶井照陰写真展 HARBIN2009-2012	11/3～11/18	主催:横浜美術館 後援:横浜市 共催:公益財団法人五島記念文化財団、フォイル 協力:みなとみらい線、横浜ケーブルビジョン、FMヨコハマ、首都高速道路株式会社 寄附:上野トランステック株式会社	無料	936
鑑賞サポート	通年	主催:横浜美術館	無料～4000	914
市民のアトリエ 講座 オープンスタジオ	通年	主催:横浜美術館	1000～ 36000	5,784

子どものアトリエ 学校のためのプログラム	通年	主催:横浜美術館	無料	6,460
子どものアトリエ 個人の造形プログラム	通年	主催:横浜美術館	1000~9000	1,385
子どものアトリエ 親子のフリーゾーン	通年	主催:横浜美術館	無料~100	23,066
子どものアトリエ 指導者育成事業および研修 事業	通年	主催:横浜美術館	無料	768
子どものアトリエ 鑑賞教育事業	通年	主催:横浜美術館	無料	1,715
子どものアトリエ アウトリーチ	通年	主催:横浜美術館	無料	427
横浜美術館コレクション・フレ ンズ	通年	主催:横浜美術館	—	176
広報・情報	通年	主催:横浜美術館	—	573
特別鑑賞会	通年	主催:横浜美術館	—	606
Heart to Art	通年	主催:横浜美術館	—	1 社